

Power Systems

Advanced System Management Interface
の管理



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[v ページの『安全上の注意』](#)、[77 ページの『特記事項』](#)、「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。本体機器提供後に、追加で電源コード・セットが必要となった場合は、補修用の取扱いとなります。

本書は、POWER9™ プロセッサを搭載した IBM® Power Systems サーバーおよびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：

Power Systems
Managing the Advanced System
Management Interface

発行：

日本アイ・ビー・エム株式会社

担当：

トランスレーション・サービス・センター

© Copyright International Business Machines Corporation 2018, 2019.

目次

安全上の注意.....	v
Advanced System Management Interface の管理.....	1
ASMI 管理に関する新しい情報.....	1
ASMI のセットアップと ASMI へのアクセス.....	1
「Spectre」および「Meltdown」に対する POWER9 サーバーの保護.....	2
ASMI 要件.....	4
HMC を使用した ASMI へのアクセス.....	4
HMC を使用しない ASMI へのアクセス.....	5
コントロール・パネルによるシステム電源の制御.....	12
ASMI によるシステム電源の制御.....	14
ASMI 権限レベル.....	17
ASMI ログインの制限.....	18
ASMI ログイン・プロファイルの設定.....	19
ASMI の使用によるサーバーの管理.....	21
システム情報の表示.....	21
システム構成の変更.....	26
パフォーマンス・オプションの設定.....	51
ネットワーク・サービスの構成.....	53
オンデマンド・ユーティリティーの使用.....	56
ASMI サービス援助機能メニューの表示.....	59
ASMI のアクセスでの問題のトラブルシューティング.....	74
特記事項.....	77
IBM Power Systems サーバーのアクセシビリティ機能.....	78
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項.....	79
商標.....	79
電波障害規制特記事項.....	80
クラス A 表示.....	80
クラス B 表示.....	83
使用条件.....	86

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィーチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。



危険: システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- IBM から電源コードが供給されている場合は、その電源コードのみを使用して当装置を電源に接続します。IBM から供給された電源コードは、他の製品には使用しないでください。
- 電源装置アセンブリを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
 - AC 電源では、すべての電源コードをそれぞれの AC 給電部から切り離します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP へのお客様の DC 電源を切断してください。
- 製品に電源を接続する際には、すべての電源ケーブルが適切に接続されていることを確認します。
 - AC 電源付きのラックでは、すべての電源コードを正しく配線され接地されたコンセントに接続します。電源コンセントから供給される電圧と相回転がシステムの定格銘板に従っていることを確認します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源を PDP へ接続します。DC 電源および DC 電源帰線を接続する際に、必ず、適切な極性が使用されていることを確認してください。

- ・ ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- ・ シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- ・ 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- ・ 考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとしないでください。
- ・ 電気に関する安全上の問題が存在することを前提としてください。サブシステムの取り付け手順時に指定された導通、接地、および電源のチェックをすべて実行して、そのマシンが安全要件を満たしていることを確認してください。
- ・ なんらかの危険な状態が存在する場合は、検査を続行しないでください。
- ・ 装置のカバーを開ける前に、取り付けおよび構成の手順で別途指示されている場合を除き、接続されている AC 電源コードを切り離し、ラック電力配分パネル (PDP) 内の該当する回路ブレーカーの電源をオフにして、すべての通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離します。



危険：

- ・ ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、以下の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. AC 電源では、コンセントから電源コードを取り外します。
3. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオフにして、お客様の DC 電源から電力を除去します。
4. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
5. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. AC 電源では、電源コードをコンセントに接続します。
5. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源からの電力を回復し、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオンにします。
6. デバイスの電源をオンにします。

鋭利な先端の部品やジョイントがシステムの中や周囲に存在している可能性があります。機器を取り扱う際には、指を切ったり、こすったり、挟んだりしないように注意してください。(D005)

(R001 パート 2 の 1):



危険： IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- ・ 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ・ ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ・ 地震オプションを取り付ける場合を除き、ラック・キャビネットに、必ず、安定板ブラケットを取り付けます。
- ・ 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ・ ラック・マウント型デバイスを柵やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄りかかっ

たり、身体を安定させるため (はしごから作業を行うときなど) にそれらの装置を使用したりしないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付属していることがあります。
 - AC 電源付きのラックでは、保守作業中に電源を切り離す指示がある場合は、ラック・キャビネット内のすべての電源コードを必ず取り外してください。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、保守作業中に電源を切断するよう指示された場合、システム装置 (単数または複数) への電力を制御する回路ブレーカーをオフにするか、またはお客様の DC 電源を切断してください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。(R001 パート 2 の 1)

(R001 パート 2 の 2):



注意:

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れるために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合や、ラックが床にボルトで留められていない場合、ドロワーやフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。



- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。(R001 パート 2 の 2)



注意: ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置 (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) 以上にあるすべてのデバイスを取り外します。

- 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
- ラック・キャビネット内で 32U (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) のレベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがほとんどないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 再配置するラック・キャビネットに取り外し可能なアウトリガーが取り付けられている場合は、アウトリガーを再配置してから、キャビネットを再配置する必要があります。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 230 mm 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、以下の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - ラック・キャビネット上にスタビライザー・ブラケットを取り付けるか、地震環境ではラックを床にボルトで留めます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げて、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)



危険: このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

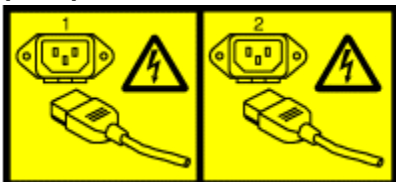
(L002)





危険：ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄り掛かったり、(はしごに乗って作業している場合などに) 体の位置を安定させるためにそれらの装置を使用したりしないでください。(L002)

(L003)



または



または

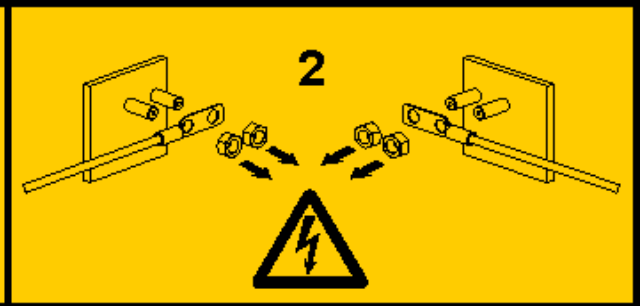
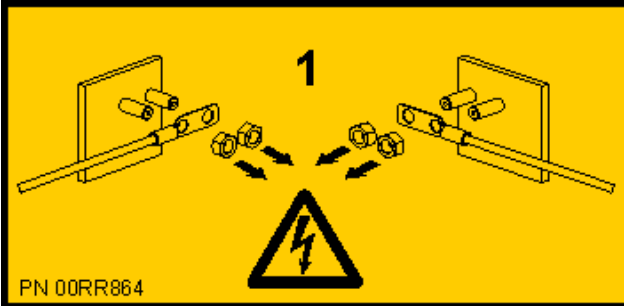


または



または





危険：複数の電源コード。この製品は複数の AC 電源コードや複数の DC 電源ケーブルを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するために、すべての電源コードと電源ケーブルを切り離してください。(L003)

(L007)



注意：近くに高温になる部品が存在します。(L007)

(L008)



注意：近くに危険な可動部品があります。(L008)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。



注意：この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- ・カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- ・本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)



注意: データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。光ファイバーの導通を確認するために、切断された光ファイバーの一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んでも目に損傷を与えない可能性はありますが、このやり方は潜在的に危険です。そのため、一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んで光ファイバーの導通を確認することはお勧めしません。光ファイバー・ケーブルの導通を検査するには、光学式光源および電力メーターを使用してください。(C027)



注意: この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。(C028)



注意: 一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の情報に注意してください。

- カバーを開くとレーザー光線の照射があります。
- 光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

(C030)



注意: このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- 水に投げ込む、あるいは浸す
- 100°C を超えて加熱
- 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)



注意: IBM 提供のベンダー・リフト・ツールに関する注意:

- リフト・ツールの作業は、許可された担当者のみが行ってください。
- リフト・ツールは、ラックの高い位置での装置 (荷物) の補助、引き上げ、取り付け、取り外しに使用するためのものです。これは、装置を装着して大きなスローブを移送するために使用したり、パレット・ジャック、ウォーカー、フォーク・トラックなどの指定ツールや関連の再配置実施の代替として使用したりするためのものではありません。このような作業を実行できない場合は、特別な訓練を受けた担当員またはサービスを使用する必要があります (例えば、整備業者や運送業者など)。
- リフト・ツールを使用する前に、作業用の資料を読んで完全に理解してください。よく読んで理解し、安全の規則に従い、手順に従って作業しないと、資産が損傷したり、作業者が負傷したりする可能性があります。質問がある場合は、ベンダーのサービスおよびサポートにお問い合わせください。ご使用の地域用の紙の資料は、マシンの近くの保管場所に保存しておく必要があります。最新リビジョンの資料は、ベンダーの Web サイトから入手可能です。
- 使用前には、毎回スタビライザーのブレーキ機能をテストして確認してください。スタビライザーのブレーキを固定した状態で、過剰な力でリフト・ツールを動かしたり回転させたりしてはなりません。
- スタビライザー (ブレーキ・ペダル・ジャック) が完全に固定されていない限り、プラットフォーム積載棚を上下左右に動かしてはなりません。使用も移動もしていない場合は、スタビライザーのブレーキを固定したままにしてください。
- わずかな位置決めを除き、プラットフォームが上がっている状態でリフト・ツールを移動させてはなりません。
- 定められた積載能力を超えてはなりません。引き伸ばされたプラットフォームの中央と端における最大積載量については、積載能力チャートを参照してください。

- 積載量が増加するのは、プラットフォームの中央に適切に配置されている場合のみです。スライドさせたプラットフォームの棚の端には、91 kg を超える装置を置いてはなりません。また、装置の重心も考慮する必要があります。
- プラットフォーム、傾斜ライザー、角度のあるユニット設置ウェッジ、その他の付属品オプションの隅に荷重をかけないでください。そのようなプラットフォーム (ライザー傾斜、ウェッジなどのオプション) は、使用する前に、提供されたハードウェアのみを使用して 4 つの位置すべて (4x またはその他のプロビジョン取り付け) にあるメイン・リフト棚または分岐点に固定します。積載オブジェクトは、大きな力を加えなくてもプラットフォーム上で簡単にスライドするように設計されているため、押したり寄り掛かったりしないように注意してください。ライザー傾斜 (調整可能な角度プラットフォーム) オプションは、最終的な微調整 (必要な場合) を除き、常に平らな状態を維持してください。
- 突き出した積載の下には立たないでください。
- 表面に段差がある場所や傾斜 (大きなスロープ) では使用しないでください。
- 装置を積み重ねないでください。
- 薬物やアルコールの影響がある状態で操作を行ってはなりません。
- リフト・ツールに対して踏み台で支えてはなりません (このツールを使用した高さでの作業に対して認定された手順に従うものに特定のあそびが設けられている場合を除く)。
- 倒れる危険があります。プラットフォームが上がった状態で装置を押ししたり寄り掛かったりしてはなりません。
- 人を持ち上げるためのプラットフォームや階段として使用してはなりません。人を乗せるためのものではありません。
- リフトのどの部分にも立ってはなりません。階段ではありません。
- マストに登ってはなりません。
- 損傷あるいは誤動作しているリフト・ツール・マシンを操作してはなりません。
- プラットフォームの下には、押し潰されたり挟まったりする危険な場所があります。装置を下ろす場合は、必ず人や障害物がない場所で行ってください。作業中は、手足に十分に注意してください。
- フォークではありません。パレット・トラック、ジャック、あるいはフォーク・リフトを使用して、むき出しのリフト・ツール・マシンを持ち上げたり移動したりしてはなりません。
- マストはプラットフォームより高い位置まで伸びます。天井の高さ、ケーブル・トレイ、スプリンクラー、電灯、およびその他の頭上にある物に注意してください。
- 装置を上げた状態でリフト・ツール・マシンから離れないでください。
- 装置が動作しているときは、手、指、衣類に十分に注意してください。
- ウィンチは、手の力のみで回転させてください。ウィンチ・ハンドルを片手で回すのが困難である場合は、荷重が大きすぎる可能性が高いです。プラットフォーム・トラベルの最上部または最下部を超えてウィンチを回さないでください。過度に巻き戻すと、ハンドルが外れてケーブルが損傷します。下げたり巻き戻したりする場合は、常にハンドルを保持してください。ウィンチ・ハンドルを離す前に、ウィンチが装置を保持していることを必ず確認してください。
- ウィンチの事故は、重傷の原因となる可能性があります。人を動かすためのものではありません。装置を引き上げる際には、クリック音が聞こえることを確認してください。ハンドルを離す前に、ウィンチが所定の位置にロックされていることを確認してください。このウィンチで作業する前に、手順を示すページをお読みください。絶対にウィンチが勝手に巻き戻ることがないようにしてください。ウィンチが勝手に回転すると、ケーブルが不規則にウィンチ・ドラムの周囲に巻かれたり、ケーブルが損傷したり、重傷の原因となる可能性があります。
- このツールは、IBM サービス担当員が使用するために、適切に維持する必要があります。IBM は、操作の前に状態を検査し、保守履歴を確認します。担当者は、不足がある場合に、このツールを使用しない権利を有します。(C048)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するように設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

DC 電源システムは、GR-1089-CORE に記載されているとおり、Common Bonding Network (CBN (共通ボンディング・ネットワーク)) に設置されることを意図したものです。

Advanced System Management Interface の管理

Advanced System Management Interface (ASMI) はグラフィカル・インターフェースであり、サービス・プロセッサ・ファームウェアの一部です。ASMI はサービス・プロセッサを管理し、サービス・プロセッサと通信します。ASMI は、サービス・プロセッサをセットアップするため、およびサービス・プロセッサ・エラー・ログの読み取り、VPD (重要プロダクト・データ) の読み取り、サービス・プロセッサのセットアップ、およびシステム電源の制御などのサービス・タスクを実行するために必要です。

ASMI は、サービス・プロセッサ・メニューと呼ばれることもあります。

注：特定のバージョンの Microsoft Internet Explorer (バージョン 11.0 を含む) を使用した場合、JAWS スクリーン・リーダーのバージョン 16.0 以降は正しく機能しないことがあります。ASMI へのアクセス時に JAWS を使用すると障害が出る場合は、代わりに、Mozilla Firefox (例えば、バージョン ESR 31.5.0) を使用してください。

ASMI 管理に関する新しい情報

このトピック・コレクションの前の更新以降、Advanced System Management Interface (ASMI) の管理について新しくなった情報または大幅に変更された情報をお読みください。

2019 年 3 月

- IP アドレスの設定について、以下のトピックが更新されました。
 - 8 ページの『[Windows XP および Windows 2000 での IP アドレスの設定](#)』
 - 9 ページの『[Windows Vista での IP アドレスの設定](#)』
 - 10 ページの『[Windows 7 での IP アドレスの設定](#)』

2018 年 8 月

- 以下の新規トピックが追加されました。
 - 73 ページの『[9080-M9S システム内のケーブルの検証](#)』
 - 35 ページの『[投機的実行制御](#)』

ASMI のセットアップと ASMI へのアクセス

Advanced System Management Interface (ASMI) には、ご使用の構成に応じて、Web ブラウザー、ASCII 端末、またはハードウェア管理コンソール (HMC) からアクセスできます。

システムが HMC で管理されている場合は、HMC を通して ASMI にアクセスできます。

システムが HMC で管理されていない場合、サーバーを端末または PC に接続し、電力を供給する必要があります。システムの電源は、コントロール・パネル (オペレーター・パネル) の電源ボタンまたは ASMI を使用してオン/オフすることができます。

「Spectre」および「Meltdown」に対する POWER9 サーバーの保護

「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性からシステムを保護するために、リソースを使用できます。

「Spectre」および「Meltdown」に対する 9008-22L、9009-22A、9009-41A、9009-42A、9223-22H、および 9223-42H サーバーの保護

「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性から 9008-22L、9009-22A、9009-41A、9009-42A、9223-22H、および 9223-42H サーバーを保護します。

概要

無許可ユーザーがアプリケーションとカーネル・メモリー間のハードウェア・バリアを飛び越えられるようにする 3 つのセキュリティー脆弱性が、今年の早い時期に公表されました。これらの脆弱性は、投機的実行を使用して、サイド・チャンネル情報開示攻撃を行います。

最初の 2 つの脆弱性 CVE-2017-5753 および CVE-2017-5715 (まとめて「Spectre」と呼ぶ) により、ユーザー・レベル・コードは権限のないメモリーからデータを推測できます。

3 番目の脆弱性 CVE-2017-5754 (「Meltdown」と呼ばれる) により、ユーザー・レベル・コードはカーネル・メモリーの内容を推測できます。脆弱性は、同じクラスの攻撃のすべてのバリエーションですが、投機的実行の悪用方法が異なります。

これらの脆弱性では、外部の無許可の一行がマシンにアクセスできるようになりませんが、システムへのアクセス権限を持つ一行が不正なデータにアクセスできるようになります。

システム (ハイパーバイザーの使用を含む) アプリケーションを含め、お客様固有の稼働環境およびオペレーティング・システムはさまざまであるため、POWER9 システム (9008-22L、9009-22A、9009-41A、9009-42A、9223-22H、および 9223-42H) は、お客様が個々のセキュリティー標準に合わせて投機的実行をシステム・レベルで制御するオプションを用意しています。

9008-22L、9009-22A、9009-41A、9009-42A、9223-22H、および 9223-42H の各システム上での投機的実行制御のオプションは、次のとおりです。

1. ユーザーからカーネルへのサイド・チャンネル攻撃およびユーザー間のサイド・チャンネル攻撃を緩和するための投機的実行制御
2. ユーザーからカーネルへのサイド・チャンネル攻撃を緩和するための投機的実行制御
3. 完全に有効な投機的実行

ユーザーからカーネルへのサイド・チャンネル攻撃およびユーザー間のサイド・チャンネル攻撃を緩和するための投機的実行制御

このモードは、信頼できないコードへの、ハイパーバイザー、オペレーティング・システム、およびユーザー・アプリケーション・データの開示を緩和する必要があるシステム向けに設計されています。

9008-22L、9009-22A、9009-41A、および 9009-42A の各モデルの場合、このモードがデフォルトとして設定されています。

ユーザーからカーネルへのサイド・チャンネル攻撃を緩和するための投機的実行制御

このモードは、CVE-2017-5753、CVE-2017-5715、および CVE-2017-5754 に記載されているとおり、権限が低いコードがオペレーティング・システムの機密事項にアクセスする脅威を軽減する必要があるシステム向けに設計されています。9223-22H システムおよび 9223-42H システムの場合、このモードがデフォルトとして設定されています。

注: このオプションを有効にすると、システム内のユーザーがアクセス可能なデータがすべて、CVE-2017-5753、CVE-2017-5715、および CVE-2017-5754 にさらされる可能性があります。これには、このシステムへ (Live Partition Mobility を使用して) マイグレーションされた区画がすべて含まれます。

完全に有効な投機的実行

このオプションのモードは、ハイパーバイザー、オペレーティング・システム、およびアプリケーションが完全に信頼できるシステム向けに設計されています。

注：このオプションを有効にすると、システムが CVE-2017-5753、CVE-2017- 5715、および CVE-2017-5754 にさらされる可能性があります。これには、このシステムに (Live Partition Mobility を使用して) マイグレーションされた区画がすべて含まれます。

投機的実行制御のオプションへのアクセス

投機的実行制御のオプションには、「システム構成」>「投機的実行制御」の Advanced Systems Management Interface (ASMI) メニューを使用してアクセスできます。この設定は、システムが電源オフ状態の時に変更できます。

「Spectre」および「Meltdown」に対する 9040-MR9、9080-M9S サーバーの保護

「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性から 9040-MR9、9080-M9S サーバーを保護します。

概要

無許可ユーザーがアプリケーションとカーネル・メモリー間のハードウェア・バリアを飛び越えられるようにする 4 つのセキュリティ脆弱性が、今年の早い時期に公表されました。これらの脆弱性は、投機的実行を使用して、サイド・チャンネル情報開示攻撃を行います。

最初の 3 つの脆弱性 CVE-2017-5753 および CVE-2017- 5715 (まとめて「Spectre」と呼ばれる) と CVE-2018-3639 (「Speculative Store Bypass」と呼ばれる) により、ユーザー・レベルまたはカーネル・レベルのコードが、権限のないメモリーからデータを推測できます。

4 番目の脆弱性 CVE-2017-5754 (「Meltdown」と呼ばれる) により、ユーザー・レベル・コードはカーネル・メモリーの内容を推測できます。

脆弱性は、同じクラスの攻撃のすべてのバリエーションですが、投機的実行の悪用方法が異なります。

これらの脆弱性では、外部の無許可の一行がマシンにアクセスできるようになりませんが、システムへのアクセス権限を持つ一行が不正なデータにアクセスできるようになります。

システム (ハイパーバイザーの使用を含む) アプリケーションを含め、お客様固有の稼働環境およびオペレーティング・システムはさまざまであるため、POWER9 システム (9040-MR9、9080-M9S) は、お客様が個々のセキュリティ標準に合わせて投機的実行をシステム・レベルで制御するオプションを用意しています。

9040-MR9、9080-M9S の各システム上での投機的実行制御のオプションは、次のとおりです。

1. ユーザーからカーネルへのサイド・チャンネル攻撃およびユーザー間のサイド・チャンネル攻撃を緩和するための投機的実行制御
2. 完全に有効な投機的実行

ユーザーからカーネルへのサイド・チャンネル攻撃およびユーザー間のサイド・チャンネル攻撃を緩和するための投機的実行制御

このモードは、信頼できないコードへの、ハイパーバイザー、オペレーティング・システム、およびユーザー・アプリケーション・データの開示を緩和する必要があるシステム向けに設計されています。9040-MR9、9080-M9S の各モデルの場合、このモードがデフォルトとして設定されています。

完全に有効な投機的実行

このオプションのモードは、ハイパーバイザー、オペレーティング・システム、およびアプリケーションが完全に信頼できるシステム向けに設計されています。

注：このオプションを有効にすると、システムが CVE-2017-5753、CVE-2017- 5715、および CVE-2017-5754 にさらされる可能性があります。これには、このシステムに (Live Partition Mobility を使用して) マイグレーションされた区画がすべて含まれます。

投機的実行制御のオプションへのアクセス

投機的実行制御のオプションには、「システム構成」>「投機的実行制御」の Advanced Systems Management Interface (ASMI) メニューを使用してアクセスできます。この設定は、システムが電源オフ状態の時に変更できます。

ASMI 要件

ASMI アクセスおよび使用の要件について説明します。

ASMI へのアクセスや使用を正常に行うため、以下の要件に注意してください。

- ASMI にはパスワード認証が必要です。
- ASMI はサービス・プロセッサに対して Secure Sockets Layer (SSL) Web 接続を行います。SSL 接続を確立するため、ブラウザを `https://` を使用して開きます。
- サポートされる Web ブラウザーは、Netscape (バージョン 9.0.0.4)、Microsoft Internet Explorer (バージョン 7.0)、Mozilla Firefox (バージョン 2.0.0.11)、および Opera (バージョン 9.24) です。これ以降のバージョンのブラウザが作動する場合がありますが、正式にはサポートされていません。JavaScript 言語と Cookie を使用可能にしておく必要があります。
- ブラウザーで「戻る」をクリックすると、古いデータが表示される場合があります。最新のデータを表示するには、ナビゲーション・ペインで表示したい項目を選択してください。
- ブラウザー・ベースの ASMI は、初期プログラム・ロード (IPL) およびランタイムも含めて、システム操作のすべてのフェーズの間中、利用可能になっています。メニュー・オプションの一部は、そのフェーズの間に対応するリソースが使用されている場合、その使用や所有権の競合を回避するためにシステム IPL またはランタイム中は利用不可になります。

注：ASMI は、ファームウェアのインストール・プロセス中は使用しないでください。

- 端末でアクセスされる ASMI は、システムがプラットフォーム・スタンバイの場合のみ使用可能です。
- インターフェースを表示するために選択した言語に関係なく、必要なすべての入力英語の文字で入力する必要があります。

関連概念

ASMI のセットアップと ASMI へのアクセス

Advanced System Management Interface (ASMI) には、ご使用の構成に応じて、Web ブラウザー、ASCII 端末、またはハードウェア管理コンソール (HMC) からアクセスできます。

HMC を使用した ASMI へのアクセス

Advanced System Management Interface (ASMI) へは、ハードウェア管理コンソール (HMC) インターフェースを介してアクセスできます。

このタスクについて

HMC を使用して Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスするには、以下の手順を完了します。

注：HMC を使用して起動できるアクティブ ASMI 接続は 1 つのみです。複数の ASMI 接続を起動するには、セキュア・シェル (SSH) トンネルを使用します。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「リソース」 > 「すべてのシステム」をクリックし、ご使用のハードウェア管理コンソール (HMC) に関連付けられているすべてのシステムを表示します。
2. 作業を行うサーバーを選択します。
3. 「アクション」 > 「すべてのオプションを表示 (View all options)」 > 「拡張システム管理 (ASM) の起動」をクリックします。「ASM インターフェースの起動」ウィンドウが表示されます。
4. 選択したシステムの HMC が ASMI にアクセスするために構成されている場合は、システムの詳細が表示されます。選択したシステムの詳細、およびそのシステムに関連付けられているサービス・プロセッサの IP アドレスが正しいことを確認します。次に、「OK」をクリックします。

ASMI ウィンドウが表示されます。

HMC を使用しない ASMI へのアクセス

HMC によって管理されない Power Systems サーバーを使用して Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスする方法を見つけます。

サーバーを PC またはノートブックに接続

サーバーを PC またはノートブックに接続して、Advanced System Management Interface (ASMI) とインターフェースを取ります。

ASMI への Web インターフェースは、初期プログラム・ロード (IPL) およびランタイムを含むシステム操作のすべてのフェーズで利用可能です。

PC またはノートブックと Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス

システムがハードウェア管理コンソール (HMC) で管理されていない場合、PC またはノートブックをサーバーに接続して、Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスすることができます。サーバーの工場出荷時のデフォルト・アドレスに一致するように、PC またはノートブックの Web ブラウザー・アドレスを構成する必要があります。

このタスクについて

ASMI への Web インターフェースは、初期プログラム・ロード (IPL) およびランタイムを含むシステム操作のすべてのフェーズで利用可能です。ASMI は、一般レベルおよび管理者レベルのサービス・タスクを実行するために使用されます。これらの作業には、サービス・プロセッサ・エラー・ログの読み取り、重要プロダクト・データの読み取り、サービス・プロセッサのセットアップ、およびシステム電源の制御が含まれます。

次の説明は、HMC に接続されていないシステムに適用されます。HMC を使用してサーバーを管理している場合は、HMC を使用して ASMI にアクセスできます。

ASMI に直接またはリモートでアクセスするために Web ブラウザーをセットアップするには、以下の作業を実行します。

手順

1. サーバーの電源がオンになっていない場合は、次の手順を実行します。
 - a) 電源コードをサーバーに接続します。
 - b) 電源コードのプラグを電源に差し込みます。
 - c) コントロールパネルに 01 と表示されるまで待ちます。01 が表示される前に、一連の進行コードが表示されます。

注:

- コントロール・パネルのライトが緑色の場合は、システムの電源はオンになっています。
- コントロール・パネルを表示するには、青色のスイッチを左側に押してコントロール・パネルを完全に引き出してから引き下ろします。

重要: この手順で後ほど指示されるまで、イーサネット・ケーブルを HMC1 ポートまたは HMC2 ポートのいずれにも接続しないでください。

2. Netscape 9.0.0.4、Microsoft Internet Explorer 7.0、Opera 9.24、あるいは Mozilla Firefox 2.0.0.11 がインストールされた PC またはノートブックを使用して、サーバーに接続します。

注: この資料を表示している PC またはノートブックに 2 つのイーサネット接続がない場合、ASMI にアクセスするには、別の PC またはノートブックがサーバーに接続されている必要があります。

ネットワークにサーバーを接続する計画がない場合、この PC またはノートブックが ASMI コンソールになります。

ネットワークにサーバーを接続する計画がある場合は、この PC またはノートブックは、セットアップの目的のみで一時的にサーバーに直接接続します。セットアップが完了すると、Netscape 9.0.0.4、Microsoft Internet Explorer 7.0、Opera 9.24、あるいは Mozilla Firefox 2.0.0.11 を実行しているネットワーク上の任意の PC またはノートブックを ASMI コンソールとして使用することができます。

注：以下の手順を実行して、Microsoft Internet Explorer の TLS 1.0 オプションを使用不可にし、Windows XP 上で実行されている Microsoft Internet Explorer 7.0 を使用して ASMI にアクセスします。

- a. Microsoft Internet Explorer の「ツール」メニューから「インターネット オプション」を選択します。
 - b. 「インターネット オプション」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックします。
 - c. 「**TLS 1.0 を使用する**」チェック・ボックス（「セキュリティ」カテゴリー）をクリアして、「了解」をクリックします。
3. イーサネット・ケーブルを、PC またはノートブックから管理対象システムの背面の HMC1 というラベルのイーサネット・ポートに接続します。HMC1 が既に使用されている場合は、イーサネット・ケーブルを、PC またはノートブックから管理対象システムの背面の HMC2 というラベルのイーサネット・ポートに接続します。
- 重要：**サービス・プロセッサのイーサネット・ポートは、デフォルトで DHCP 用に構成されています。サービス・プロセッサが、DHCP サーバーが設置された稼働中のイーサネット・ネットワークに接続され、サービス・プロセッサがオンになっている場合、IP アドレスが割り当てられます。サービス・プロセッサのデフォルトの IP アドレスは有効でなくなります。サービス・プロセッサのデフォルトの IP アドレスを復元するには、以下のいずれかのタスクを実行します。
- ・ シリアル・ケーブルを使用して ASCII 端末をサービス・プロセッサに接続します。詳細については、[ASCII 端末を使用した ASMI へのアクセス](#)を参照してください。
 - ・ ASMI を使用して、「IP アドレスのタイプ」を「動的」に設定します。FSP がライブ・ネットワークに接続されていないことを確認します。このアクションにより、以下の [6 ページの表 1](#) に示すように、FSP がデフォルトの IP アドレスに設定されます。
4. [6 ページの表 1](#) を使用して、PC またはノートブックでサービス・プロセッサの IP アドレスを設定するために必要な情報を判別し、記録します。PC またはノートブックのイーサネット・インターフェースは、サービス・プロセッサと同じサブネット・マスク内に構成して、相互に通信できるようにする必要があります。例えば、PC またはノートブックを HMC1 に接続した場合、その PC またはノートブックの IP アドレスは 169.254.2.140 とすることができ、サブネット・マスクは 255.255.255.0 になります。ゲートウェイ IP アドレスを PC またはノートブックと同じ IP アドレスに設定します。

表 1：POWER9 プロセッサ・ベースのシステムのサービス・プロセッサに関するネットワーク構成情報				
POWER9 プロセッサ・ベースのシステム	サーバー・コネクタ	サブネット・マスク	サービス・プロセッサの IP アドレス	PC またはノートブックの IP アドレスの例
サービス・プロセッサ A	HMC1	255.255.255.0	169.254.2.147	169.254.2.140
	HMC2	255.255.255.0	169.254.3.147	169.254.3.140

5. 表の値を使用して、PC またはノートブックで IP アドレスを設定します。詳しくは、[8 ページの『PC またはノートブックでの IP アドレスの設定』](#)を参照してください。
6. Web ブラウザーを使用して ASMI にアクセスするには、次の手順を実行してください。
 - a) [6 ページの表 1](#) を使用して、PC またはノートブックが接続されているサービス・プロセッサのイーサネット・ポートの IP アドレスを判別します。
 - b) ご使用の PC またはノートブックの Web ブラウザーの「アドレス」フィールドに、その IP アドレスを入力して Enter キーを押します。例えば、PC またはノートブックを HMC1 に接続した場合は、PC またはノートブックの Web ブラウザーに <https://169.254.2.147> と入力します。

注：サービス・プロセッサがスタンバイ状態になるまで、2 分から 5 分かかる場合があります。サービス・プロセッサがスタンバイ状態になるまでは、Web ブラウザーを使用して ASMI メニューにアクセスすることはできません。サービス・プロセッサがスタンバイ状態になるまでは、コントロール・パネルで機能コード 30 を使用して、サービス・プロセッサの IP アドレスを表示することはできません。

7. ログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに **admin** を入力します。
8. プロンプトが出されたら、デフォルトのパスワードを変更します。
9. 以下のオプションから選択してください。
 - ・ サービス・プロセッサをネットワークに接続する計画がある場合は、ステップ [7 ページの『10』](#)に進みます。
 - ・ サービス・プロセッサをネットワークに接続する計画がない場合は、ステップ [8 ページの『14』](#)に進みます。
10. サービス・プロセッサをネットワークに接続する計画がある場合は、次の手順を実行してください。
 - a) ナビゲーション領域から、「**ネットワーク・サービス**」を展開します。
 - b) 「**ネットワーク構成**」をクリックします。
 - c) 「ネットワーク構成」画面で「**IPv4**」または「**IPv6**」を選択し、「**続行**」をクリックします。
11. IPv4 を選択した場合は [7 ページの表 2](#) を使用し、IPv6 を選択した場合は [7 ページの表 3](#) を使用して、適切なフィールドに入力してください。
 - ・ PC またはノートブックが HMC1 に接続されている場合は、ネットワーク・インターフェース eth0 とラベルが付いているセクションに入力します。
 - ・ PC またはノートブックが HMC2 に接続されている場合は、ネットワーク・インターフェース eth1 とラベルが付いているセクションに入力します。

フィールドに正しく入力されていることを確認します。

表 2: IPv4 ネットワーク構成のフィールドおよび値	
フィールド	値
このインターフェースを構成しますか?	選択
IPv4	「使用可能」のままにします。
IP アドレスのタイプ	IP アドレス 1 を構成する場合は「 リンク・ローカル 」、IP アドレス 2 または 3 を構成する場合は「 静的 」。
ホスト名	ホスト・システムの名前を入力します。
IP アドレス (IP address)	これは、ネットワーク管理者から入手した設定済みの IP アドレスです。
サブネット・マスク	これは、ネットワーク管理者から入手した設定済みのサブネット・マスクです。
デフォルト・ゲートウェイ	IP アドレス 2 または 3 を構成する場合は、ネットワーク管理者から入手したデフォルト・ゲートウェイ・アドレスを入力します。
ドメイン名	ネットワーク管理者から入手したドメイン名を入力します。
第 1、第 2、または第 3 のドメイン・ネーム・システム (DNS) の IP アドレス	ネットワーク管理者から入手した DNS の IP アドレスを入力します。

表 3: IPv6 ネットワーク構成のフィールドおよび値	
フィールド	値
このインターフェースを構成しますか?	選択
IPv6	「使用可能」のままにします。

表 3 : IPv6 ネットワーク構成のフィールドおよび値 (続く)	
フィールド	値
DHCP	デフォルト値は「使用可能」です。
自動構成された IP アドレス	デフォルト値は「使用可能」です。
ホスト名	新しい値を入力します。
IP アドレスのタイプ	静的
IP アドレス (IP address)	これは、ネットワーク管理者から入手した設定済みの IP アドレスです。 注 : 正しい IP アドレスを使用していることを確認するには、コントロール・パネルで機能コード 30 を実行して、サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポート位置を表示します。
デフォルト・ゲートウェイ	IP アドレス 2 または 3 を構成する場合は、ネットワーク管理者から入手したデフォルト・ゲートウェイ・アドレスを入力します。
ドメイン名	新しい値を入力します。

12. 「**続行**」をクリックします。
13. 「**設定の保管**」をクリックします。
14. HMC1 から PC またはノートブックに接続しているケーブルを取り外します。イーサネット・ケーブルを、ネットワーク・スイッチに接続されている HMC1 に接続します。
15. ASMI にアクセスできるシステムを使用します。ブラウザ・ウィンドウを開き、ASMI にアクセスしてネットワーク接続を確認します。
16. 別の手順からこの手順に進んだ場合は、その手順に戻ります。

関連概念

ASMI 権限レベル

ASMI を使用してサービス・プロセッサのメニューにアクセスする場合、いくつかの権限レベルを使用できます。

関連タスク

HMC を使用した ASMI へのアクセス

Advanced System Management Interface (ASMI) へは、ハードウェア管理コンソール (HMC) インターフェースを介してアクセスできます。

時刻の変更

システムの現在の日付と時刻を表示および変更することができます。時刻は UTC (協定世界時) として保管されます。

ネットワーク・インターフェースの構成

システム上でネットワーク・インターフェースを構成できます。インターフェースの数とタイプは、システムの特定の要件に応じて異なります。

PC またはノートブックでの IP アドレスの設定

Web ブラウザーを介して ASMI にアクセスするには、まず PC またはノートブックで IP アドレスを設定する必要があります。以下の手順では、Microsoft Windows XP、2000、および Vista、ならびに Linux オペレーティング・システムを稼働している PC およびノートブックでの IP アドレスの設定について説明します。

Windows XP および Windows 2000 での IP アドレスの設定

Windows XP および Windows 2000 内で IP アドレスを設定するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「**スタート**」 > 「**コントロール パネル**」をクリックします。

2. コントロール・パネルで、「ネットワーク接続」をダブルクリックします。
3. 「ローカル・エリア接続」を右クリックします。
4. 「属性」をクリックします。
5. 「インターネット・プロトコル (TCP/IP)」を選択し、「属性」をクリックします。



重要: 変更を加える前に現在の設定を記録しておきます。これにより、ASMI Web インターフェースをセットアップした後 PC またはノートブックを切り離した場合に、これらの設定を復元することができます。

注: インターネット・プロトコル (TCP/IP) がリストに表示されない場合は、以下の手順を完了します。

- a. 「インストール」をクリックします。
 - b. 「プロトコル」を選択し、次に「追加」をクリックします。
 - c. 「インターネット・プロトコル (TCP/IP)」を選択します。
 - d. 「了解」をクリックして、「ローカル・エリア接続のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
6. 「次の IP アドレスを使用」を選択します。
 7. 「IP アドレス」フィールドおよび「サブネット・マスク」フィールドに、「Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス」のステップ 6 ページの『4』で取得した値を入力します。
 8. 「ローカル・エリア接続のプロパティ」ウィンドウで「了解」をクリックします。PC を再始動する必要はありません。

Linux での IP アドレスの設定

Linux オペレーティング・システムで IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。

このタスクについて

この手順では、Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセスのステップ 6 ページの『4』で取得した IP アドレスおよび「サブネット・マスク」の値が必要です。

手順

1. root ユーザーとしてログオンしていることを確認します。
2. 端末セッションを開始します。
3. コマンド・プロンプトで `ifconfig -a` と入力します。



重要: 変更を加える前に、現在の設定および eth1 または eth2 インターフェースを記録または印刷してください。これによって、ASMI Web インターフェースのセットアップ後に PC またはノートブックを切り離す場合に、これらの設定を復元することができます。

4. `ifconfig ethx xxx.xxx.xxx.xxx netmask xxx.xxx.xxx.xxx` と入力します。ここで、xxx.xxx.xxx.xxx の値は、『IP アドレスおよびサブネット・マスク』の手順 6 ページの『4』の値です。ethx を、手順 3 に示されているインターフェースで置き換えてください。
5. Enter キーを押します。

Windows Vista での IP アドレスの設定

Windows Vista で IP アドレスを設定するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「スタート」 > 「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「クラシック表示」が選択されていることを確認します。
3. 「ネットワークと共有センター」を選択します。
4. 「パブリック・ネットワーク」領域で「状況の表示」を選択します。
5. 「属性」をクリックします。
6. セキュリティー・ダイアログが表示されたら、「続行」をクリックします。

7. 「インターネット・プロトコル バージョン 4」を強調表示します。
8. 「属性」をクリックします。
9. 「次の IP アドレスを使う」を選択します。
10. 「IP アドレス」フィールドおよび「サブネット・マスク」フィールドに、「Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス」のステップ 6 ページの『4』で取得した値を入力します。
11. 「了解」>「閉じる」>「閉じる」をクリックします。

Windows 7 での IP アドレスの設定

Windows 7 オペレーティング・システムで IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「スタート」>「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「ネットワークと共有センター」を選択します。
3. 「設定 (Connections)」に表示されているネットワークをクリックします。
4. 「属性」をクリックします。
5. セキュリティ・ダイアログボックスが表示されたら、「続行」をクリックします。
6. 「インターネット・プロトコル バージョン 4」を強調表示します。
7. 「属性」をクリックします。
8. 「次の IP アドレスを使う」を選択します。
9. 「IP アドレス」フィールドおよび「サブネット・マスク」フィールドに、「Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス」トピックのステップ 6 ページの『4』で取得した値を入力します。
10. 「了解」>「閉じる」>「閉じる」をクリックします。

AIX または Linux を実行しているシステムを端末に接続

AIX® または Linux 環境で実行されているシステムを ASCII 端末またはグラフィックス端末に接続することで、システム管理サービス (SMS) メニューと通信できるようになります。

関連情報

[システム管理サービスの開始](#)

ASCII 端末を使用した ASMI へのアクセス

ASCII 端末は、シリアル・リンクを介してサーバーに接続されます。ASMI への ASCII インターフェースは、Web インターフェース機能のサブセットを提供します。ASCII 端末は、システムがプラットフォーム・スタンバイ状態のときにのみ使用可能です。初期プログラム・ロード (IPL) 中またはランタイムには使用できません。

このタスクについて

この接続によって、システム管理サービスへのアクセスも可能になります。システム管理サービス・メニューを使用して、ご使用のシステムに関する情報を表示し、ブート・リストの変更やネットワーク・インストール・パラメーターの設定などの手順を実行します。

ASMI に直接またはリモートでアクセスするために ASCII 端末をセットアップするには、次の手順を実行します。

手順

1. スル・モデムが装備されたシリアル・ケーブルを使用して、ASCII 端末をサーバー背面のシステム・コネクタ 1 (P1-T1、デフォルト) または 2 (P1-T2) に接続します。
2. サーバーの電源コードを電源に接続してください。
3. コントロール・パネルの緑色のライトが明滅し始めるまで待ちます。
4. ASCII 端末が以下の一般的な属性に設定されていることを確認します。

これらの属性は診断プログラム用のデフォルト設定です。端末がこれらの属性に従って設定されていることを確認してから、次のステップに進みます。

表 4: 診断プログラム用のデフォルトの設定値				
一般のセットアップ属性	3151 / 11/31/41 の設定	3151 / 51/61 設定	3161 /64 設定	説明
回線速度	19,200	19,200	19,200	19,200 (ビット/秒) の回線速度を使用して、システム装置と通信します。
ワード長 (ビット)	8	8	8	データ・ワード長 (バイト) として 8 ビットを選択します。
パリティ	いいえ	いいえ	いいえ	パリティ・ビットは追加されません。ワード長属性と一緒に使用して、8 ビットのデータ・ワード (バイト) を形成します。
ストップ・ビット	1	1	1	データ・ワード (バイト) の後に 1 ビットを置きます。

5. ASCII 端末のキーを押して、サービス・プロセッサに ASCII 端末の存在を確認させます。
6. ASMI のログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに **admin** と入力します。
7. プロンプトが出されたら、デフォルトのパスワードを変更します。

ASCII 端末のセットアップが完了し、ASMI が開始されました。

8. ASMI 上でサーバーの時刻を変更します。
9. ASMI のシステム電源オン/オフ・メニューを使用して、システム・ブート・モードを「ブート」に設定します。
10. オペレーティング・システムが (例えば、工場) でインストールされている場合、ここでオペレーティング・システムがブートします。オペレーティング・システムがインストールされていない場合は、システムはシステム管理サービス (SMS メニュー) にブートします。

注: SMS メニューを使用して、ご使用のシステムに関する情報を表示し、ブート・リストの変更やネットワーク・インストール・パラメーターの設定などのタスクを実行します。

11. オペレーティング・システムがインストールされていない場合は、ここで AIX オペレーティング・システム、または Linux オペレーティング・システムをインストールすることができます。

関連概念

ASMI 権限レベル

ASMI を使用してサービス・プロセッサのメニューにアクセスする場合、いくつかの権限レベルを使用できます。

関連タスク

時刻の変更

システムの現在の日付と時刻を表示および変更することができます。時刻は UTC (協定世界時) として保管されます。

システムの電源オン/オフ

さまざまな初期プログラム・ロード (IPL) パラメーターを表示およびカスタマイズします。

関連情報

システム管理サービスの管理

グラフィックス・コンソールへのアクセス

グラフィックス・コンソールは、AIX または Linux サーバー Linux サーバーを管理するために使用することはできませんが、Advanced System Management Interface (ASMI) へのアクセスには使用できません。グラフィックス・コンソールは、テキスト (ASCII) モードでグラフィカル・インターフェースとして使用できません。

このタスクについて

グラフィックス・コンソールをセットアップして使用するには、以下の手順を完了してください。

手順

1. サーバーの背面にあるグラフィックス・アダプターを見つけます。
2. コンソールを使用するために標準モニターをアダプターに接続し、必要な場合は、キーボードとマウスを USB ポートに接続してください。
3. コンソールの電源をオンにします。
4. サーバーの電源ケーブルを接続し、オペレーター・パネルの緑色のライトが明滅し始めるのを待ちます。
5. 白色の開始ボタンを押してサーバーを開始します。オペレーティング・システムが (例えば、工場で) インストールされている場合は、ここでブートします。オペレーティング・システムがインストールされていない場合は、システムは、システム管理サービスにブートします (SMS メニューが表示されます)。

注: SMS メニューを使用して、システムについての情報を表示し、ブート・リストの変更およびネットワーク・インストール・パラメーターの設定などのタスクを実行します。

6. オペレーティング・システムがインストールされていない場合は、ここで AIX オペレーティング・システム、または Linux オペレーティング・システムをインストールすることができます。

関連情報

[システム管理サービスの管理](#)

コントロール・パネルによるシステム電源の制御

コントロール・パネルを使用してシステムを始動あるいは停止する方法を理解します。

HMC が管理していないシステムの始動

電源ボタンまたは Advanced System Management Interface (ASMI) を使用すると、ハードウェア管理コンソール (HMC) が管理していないシステムを始動することができます。

HMC が管理していないシステムの停止

別のタスクを行うためにシステムを停止することが必要になる場合があります。システムがハードウェア管理コンソール (HMC) によって管理されていない場合は、電源ボタンまたは Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、以下の手順でシステムを停止してください。

始める前に

システムの停止前に、以下のステップに従います。

1. すべてのジョブが完了して、すべてのアプリケーションを終了していることを確認します。
2. Virtual I/O Server (VIOS) 論理区画が稼働している場合は、すべてのクライアントがシャットダウンしていること、あるいはクライアントが代替方法で装置にアクセスできることを確認します。

遅延電源オフの開始

コントロール・パネル上の電源ボタンを使用して、遅延電源オフ (DPO) 機能を開始できます。

始める前に



重要: コントロール・パネルの電源ボタンを使用してシステムの電源をオフにすると、データ・ファイルに予期しない結果が生じることがあり、次の IPL の実行に要する時間が長くなります。

サーバーによっては、システムが手動操作モードでない限り、電源オフのシーケンスに応答しない場合があります。必要に応じて、システムの操作モードを**手動**モードに設定します。

このタスクについて

DPO を開始するには、以下の手順を完了します。

手順

1. コントロール・パネル上の電源ボタンを 4 秒間押します。
1 秒後にカウントダウン時間が表示されます。デフォルトのカウントダウン時間は 4 秒です。
2. カウントダウン時間がゼロになるまで電源ボタンを押し続けてから、電源ボタンを離します。
DPO が開始します。

次のタスク

DPO が開始する前にこれをキャンセルするには、カウントダウンがゼロになる前に電源ボタンを離します。電源ボタンが 1 秒以上押されないと、カウントダウン時間は表示されず、電源オフ機能は開始しません。

関連情報

[物理コントロール・パネルを手動操作モードにします](#)

高速電源オフの開始

コントロール・パネル上の電源ボタンを使用して、高速電源オフ (FPO) 機能を開始できます。

始める前に



重要: コントロール・パネルの電源ボタンを使用してシステムの電源をオフにすると、データ・ファイルに予期しない結果が生じることがあり、次の IPL の実行に要する時間が長くなります。

サーバーによっては、システムが手動操作モードでない限り、電源オフのシーケンスに応答しない場合があります。必要に応じて、システムを手動操作モードに設定します。

このタスクについて

FPO を開始するには、以下の手順を実行します。

手順

1. コントロール・パネル上の電源ボタンを 4 秒間押します。
1 秒後にカウントダウン時間が表示されます。デフォルトのカウントダウン時間は 4 秒です。
2. カウントダウン時間がゼロになり、遅延電源オフ (DPO) が開始するまで電源ボタンを押し続けます。
DPO-FPO 分離のカウント 10 秒が新たに開始します。この分離のカウントは、DPO を FPO から区別するために使用されます。このインターバルの間、DPO 進行コードが表示され、その後でカウントダウン時間が表示されます。
3. DPO-FPO 分離のカウントがゼロになるまで電源ボタンを 10 秒間押し続けてから、電源ボタンを離します。
FPO カウントが終ると、A100800A が表示されて、FPO が開始されます。この処理は、機能 08 の実行に相当します。

次のタスク

電源ボタンを DPO-FPO 分離のカウント中に離すと、FPO はキャンセルされ、DPO が続行されます。

電源ボタンを DPO-FPO 分離インターバルの完了後に押し続けるか、DPO の進行中に押し続けると、FPO カウントダウンが再開し、A1008009 が表示されます。

関連情報

[物理コントロール・パネルを手動操作モードにします](#)

ASMI によるシステム電源の制御

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、システム電源を手動および自動で制御します。

システムの電源オン/オフ

さまざまな初期プログラム・ロード (IPL) パラメーターを表示およびカスタマイズします。

このタスクについて

IPL オプションの設定に加えて、システムの始動およびシャットダウンを行うことができます。

これらの操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ユーザーが設定できる IPL オプションのいくつかは、サーバー・ファームウェアに関するものです。ファームウェアはサーバーに不可欠な部分で、フラッシュ・メモリーに保管されており、システムの電源オフ時にその内容が保存されます。ファームウェアは、サーバーの電源を入れると自動的に開始されるコードです。主な目的は、サーバーを動作準備ができた状態にすること、つまり、オペレーティング・システムのインストールまたはブートを行うためにサーバーを作動可能にすることです。ファームウェアは、ハードウェアの例外条件を処理することを可能にしたり、サーバー・ハードウェア・プラットフォームの機能を拡張したりすることもできます。サーバーの現行ファームウェア・レベルは、Advanced System Management Interface (ASMI) の「ようこそ」ペインに表示できます。

このサーバーは、永続ファームウェア・ブート・サイド (P サイド) と一時ファームウェア・ブート・サイド (T サイド) を備えています。ファームウェアを更新する場合、まず一時サイドに新しいレベルのファームウェアをインストールして、アプリケーションとの互換性をテストしてください。新しいレベルのファームウェアが承認されたら、それを永続サイドにコピーします。

IPL 設定を表示および変更するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**電源/再始動制御**」を展開し、「**システムの電源オン/オフ**」を選択します。
3. 必要に応じてブート設定を設定します。

注: KVM モードでは、以下の電源オン/オフのオプションは使用できません。

- AIX/Linux パーティション・モード・ブート: AIX/Linux パーティション用のブート・タイプを選択します。このオプションは、システムがハードウェア管理コンソール (HMC) によって管理されていない場合にのみ、有効です。以下のブート・タイプのオプションから選択してください。

- オペレーティング・システムに続行: パーティションは、停止せずに、オペレーティング・システムにブートします。
- SMS メニューにブート: パーティションは、「システム管理サービス (SMS)」メニューで停止します。
- 保管リストからサービス・モード・ブート: システムは、保管サービス・モード・ブート・リストからブートします。

注: このオプションを使用すると、パーティションに対する診断を実行できます。パーティション・オペレーティング・システムは診断ブートをサポートする必要があり、診断はパーティションのディスク・ドライブにロードされる必要があります。

- デフォルト・リストからサービス・モード・ブート: システムは、デフォルト・ブート・リストからブートします。

注: このオプションを使用すると、CD-ROM ドライブからスタンドアロン診断を実行できます。

- オープン・ファームウェア・プロンプトにブート: システムは、オープン・ファームウェア・プロンプトで停止します。

注:セキュア・ブートのパーティション設定が「有効化済みおよび実施済み」である場合は、このオプションを使用できません。

- i5/OS パーティション・モード・ブート: 次のシステム・ブート用に i5/OS パーティション・モードを選択します。このオプションは、システムが HMC によって管理されていない場合にのみ使用可能です。
- デフォルトの区画環境

通常

サービス・プロセッサ・ファームウェアが、ハードウェアの状態に基づいて診断テストを実行します。これがデフォルト設定です。

次のブートのファームウェア・ブート・サイド

次回にファームウェアをブートするサイド (「永続」または「一時」) を選択します。ファームウェア更新を永続サイドにコピーする前に一時サイドからブートすることにより、ファームウェア更新をテストできます。

システム操作モード

操作モード (「手動」または「通常」) を選択します。手動モードは、さまざまな自動電源オン機能 (自動電源再始動など) をオーバーライドし、電源ボタンを使用可能にします。

AIX/Linux パーティション・モード・ブート

ブート処理時の停止点を選択します。このオプションは、システムが HMC によって管理されていない場合にのみ使用可能です。「保存リストからサービス・モード・ブート」は、オンライン AIX 診断を実行するための優先方式です。「デフォルト・リストからのサービス・モード・ブート」は、スタンドアロン AIX 診断を実行するための優先方式です。

このオプションは、管理対象システムが工場出荷時デフォルト構成 (サービスおよびサポートから受け取ったままの初期区画セットアップ) を使用している場合にのみ適用できます。システムが工場出荷時デフォルト構成を使用していない場合は、このオプションを変更しても無効です。ただし、システムが工場出荷時デフォルト構成を使用している場合は、このオプションを変更することにより、次の再始動時の設定を変更できます。

サーバー・ファームウェア始動ポリシー

サーバー・ファームウェアの始動状態を選択します。「スタンバイ (ユーザー開始) (Standby (User-Initiated))」、「実行中 (常に自動始動) (Running (Auto-Start Always))」、または「自動始動 (自動再始動のみ) (Auto-Start (Automatic Restarts Only))」です。サーバーがサーバー・ファームウェア・スタンバイ状態のときに、論理区画をセットアップして活動化することができます。

システム電源オフ・ポリシー

システム電源オフ・ポリシーは、最後の区画 (HMC によって管理されないシステムの場合は、唯一の区画) の電源オフ時のシステムの動作を制御するシステム・パラメーターです。以下のシステム電源オフ・ポリシーから選択してください。

- **Automatic:** HMC が電源オフの発生時期を制御できるようにし、必要であれば、最短の経過時間を保証します。
- **Power off:** 最後のパーティションが電源オフになると、システムが電源オフになります。
- **Stay on:** 最後のパーティションが電源オフになっても、システムは電源オンのままです。

注: 最後のパーティションの電源がオフになる前にフラッシュ・ブートが変更された場合、システムは、自動的にリブートして、サイド・スイッチ・アクションを完了します。

デフォルトの区画環境

「デフォルト」(RB キーワードが S0 でない場合にのみ有効)、**AIX**、**IBM i**、または **Linux** を選択します。

注:

- デフォルト区画環境を他のいずれかの値から **IBM i** に変更すると、「**IBM i** 使用可能/使用不可」の設定が自動的に「使用可能」に変更されます。
- デフォルト区画環境を **IBM i** から他のいずれかの値に変更した場合は、「**IBM i** 使用可能/使用不可」の設定は影響されません。

4. 以下のいずれかを行います。

- 「**設定の保管**」をクリックして、選択したオプションを保存します。電源状態は変更されません。
- 「**設定を保管して電源オン/オフ**」をクリックします。選択したオプションがすべて保存され、システムの電源がオンまたはオフになります。電源オン・オプションは、システムの電源がオフの場合にのみ選択可能です。電源オフ・オプションは、システムの電源がオンの場合にのみ選択可能です。

関連概念

重要プロダクト・データのプログラミング

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用すると、システム・ブランド、システム ID、システム・エンクロージャー・タイプなどのシステムの重要プロダクト・データ (VPD) をプログラムすることができます。VPD 関連パネルのどれかにアクセスするには、権限レベルは管理者または IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

関連タスク

システム ID の設定

システム固有の ID、システムのシリアル番号、マシン・タイプ、およびマシン・モデルを設定します。

システム・ブランドの設定

システム・ブランドは、2 文字のシステム・ブランド値を使用してご使用のシステムを識別します。

自動電源再始動の設定

システムを自動的に再始動する機能を使用可能に設定したり、または使用不可に設定します。

このタスクについて

ご使用のシステムを自動的に再始動するように設定することができます。この機能は、一時的な電源障害の後またはシステムのシャットダウンを引き起こした予期しなかった電源回線の障害の後、電源が回復していずれかのバックアップ電源装置が再充電した場合に役立ちます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

自動電源再始動を使用するためには、電源オンおよび電源オフについてのシステム設定でシステムの操作モードを「**通常**」に設定する必要があります。

自動電源再始動機能を設定するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**電源/再始動の制御**」を展開して、「**自動電源再始動**」を選択します。
3. 選択リストから、「**使用可能**」または「**使用不可**」のいずれかを選択します。デフォルトでは、自動電源再始動の状態は「**使用不可**」です。
4. 「**設定の保管**」をクリックして、選択したオプションを保存します。

タスクの結果

システムが再始動したとき、システムは停電した時の状態に戻ります。システムがハードウェア管理コンソール (HMC) に管理されていない場合は、システムはオペレーティング・システムをリブートします。システムが HMC に管理されている場合は、停電前に実行していたすべての区画が再活動化されます。

関連タスク

システムの電源オン/オフ

さまざまな初期プログラム・ロード (IPL) パラメーターを表示およびカスタマイズします。

即時電源オフの実行

即時電源オフ機能を使用すると、より迅速にご使用のシステムを電源オフできます。通常、このオプションは、緊急電源オフが必要な時に使用します。オペレーティング・システムは、システムが電源オフされる前にそのことを通知されません。

このタスクについて



重要: データ損失を防ぎ、システム区画または論理区画の次のブート時に IPL に要する時間が長くないようにするために、即時電源オフを行う前にオペレーティング・システムをシャットダウンしてください。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

即時電源オフを行うには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**電源/再始動の制御**」を展開して、「**即時電源オフ (Immediate Power Off)**」を選択します。
3. 「**続行**」をクリックして、選択した操作を行います。

システム・リブートの実行

システムの完全シャットダウンを行わずに、ご使用のシステムをリブートできます。

このタスクについて

重要: システムをリブートすると、すべての区画が即時にシャットダウンされます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

システム・リブートを行うには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**電源/再始動の制御**」を展開して、「**システム・リブート**」を選択します。
3. 「**続行**」をクリックして、選択した操作を行います。

ASMI 権限レベル

ASMI を使用してサービス・プロセッサのメニューにアクセスする場合、いくつかの権限レベルを使用できます。

以下のアクセス・レベルをサポートします。

一般ユーザー

一般ユーザーに提供されるメニュー・オプションは、管理者および IBM 認定サービス・プロバイダーが使用できるオプションのサブセットです。一般権限のあるユーザーは、ASMI メニューの設定を表示することができます。ログイン ID は `general` で、デフォルトのパスワードは `general` です。

管理者

管理者に提供されるメニュー・オプションは、IBM 認定サービス・プロバイダーが使用できるオプションのサブセットです。管理者権限のあるユーザーは、永続ストレージへ書き込むこと、および、サーバーの動作に影響を及ぼすような設定の表示と変更ができます。サーバーをインストールした後、最初に ASMI にログインしたとき、ユーザーは新規パスワードを選択する必要があります。ログイン ID は admin で、デフォルトのパスワードは admin です。

認定サービス・プロバイダー

このレベルでログインした IBM 認定サービス・プロバイダーは、障害を起こしているシステムから追加デバッグ情報を収集するために利用できるすべての機能にアクセスできます。これには、永続ストレージの表示や、すべての構成解除エラーのクリアなどが含まれます。IBM 認定サービス・プロバイダーのログイン ID には、**celogin**、**celogin1**、および **celogin2** の 3 つがあります。

- **celogin** は、サービス・プロバイダーの基本アカウントです。これはデフォルトで使用可能になり、他の 2 つのサービス・プロバイダー ID (**celogin1** と **celogin2**) を使用可能または使用不可にすることができます。ログイン ID は **celogin** です。パスワードは動的に生成され、呼び出し元の IBM テクニカル・サポートが取得する必要があります。**celogin** は、**admin** ユーザーが使用不可にすることができます。

重要:

celogin ログイン ID のパスワードは IBM Confidential として分類されており、使用できるのは IBM 担当者のみです。お客様が **celogin** ログイン ID のパスワードを要求した場合、追加のサービス料金が請求されます。サービス・サポート担当者 (SSR) の行為はサービス契約ではカバーされないためです。

- **celogin1** と **celogin2** は、デフォルトで使用不可になっています。ID を使用可能にする場合は、それらの静的パスワードを設定する必要があります。デフォルトのパスワードは、両方とも **celogin** です。このデフォルトのパスワードは、初めて ID を使用可能にしたときに変更する必要があります。**admin** ユーザーは、これらのログイン ID も使用不可および使用可能にすることができます。
- **celogin1** または **celogin2** のパスワードをリセットするには、**admin** ユーザーは ID を使用不可にしてから再度使用可能にします。ID を再度使用可能にしたら、即座にパスワードを変更する必要があります。
- 使用可能に設定されている場合、**celogin**、**celogin1**、または **celogin2** を使用して admin パスワードをリセットできます (必要な場合)。

管理者および一般ユーザーの最初のログインでは、メニュー・オプションとしてはパスワードの変更だけが使用可能です。追加の ASMI メニューへアクセスするには、管理者および一般ユーザーのデフォルト・パスワードを変更しなければなりません。IBM 認定サービス・プロバイダーの場合は、パスワードを変更することはできません。

関連タスク

ASMI パスワードの変更

一般ユーザー、管理者、および HMC アクセスのパスワードを変更します。

ASMI ログインの制限

ログインできるユーザーの最大数など ASMI ログインの制限を理解します。

同時に 3 ユーザーのみログインできます。例えば、ASMI に 3 人ログインしている場合、現在ログインしているユーザーの 1 人より高い権限を持ったユーザーがログインしようすると、ASMI は特権が最低のユーザーの 1 人を強制的にログアウトします。また、ログインしていて 15 分間アクティブでなければ、セッションは期限切れになります。セッションの期限が切れるとき、即時通知を受け取ることはありません。ただし、現在のページで何かを選択すると、「ASMI へようこそ」ペインに戻ります。

ASMI にログインしているユーザーを確認するには、ログインしてから「ASMI へようこそ」ペインの「**現行ユーザー**」を表示してください。

注: ログインするまで、「**ユーザー ID 状況**」テーブルは、「ASMI へようこそ」ペインに表示されません。

有効でないログインを 5 回行くと、そのユーザー・アカウントは 5 分間ロックされ、他のどのアカウントにも影響しません。例えば、管理者アカウントがロックされても、一般ユーザーは正しいパスワードを使用してログインできます。このログイン制限は、一般ユーザー、管理者、および許可されたサービス・プ

ロバイダー ID に適用されます。また、このログイン制限は、HMC を使用して設定された管理対象システム HMC アクセス ID にも適用されます。

関連概念

ASMI 権限レベル

ASMI を使用してサービス・プロセッサのメニューにアクセスする場合、いくつかの権限レベルを使用できます。

ASMI ログイン・プロファイルの設定

パスワードの変更、ログイン監査の表示、デフォルト言語の変更、およびインストールされている言語を更新する方法を理解します。

ASMI パスワードの変更

一般ユーザー、管理者、および HMC アクセスのパスワードを変更します。

このタスクについて

一般ユーザー、管理者、および HMC アクセスのパスワードを変更することができます。一般ユーザーの場合は、自分自身のパスワードだけが変更できます。管理者の場合は、自分のパスワードおよび一般ユーザー・アカウントのパスワードを変更できます。IBM 認定サービス・プロバイダーの場合は、自分のパスワード、一般ユーザー・アカウントと管理者ユーザー・アカウントのパスワード、および HMC アクセス・パスワードを変更できます。

パスワードには最大 64 文字の英数字の任意の組み合わせを使用することができます。一般ユーザー ID のデフォルトのパスワードは **general** であり、管理者 ID のパスワードは **admin** です。ASMI への初期ログインの後、ならびにリセット・トグル・ジャンパーの移動後には、一般ユーザー・パスワードおよび管理者パスワードを変更する必要があります。

HMC アクセス・パスワードは通常、初期ログイン時に HMC から設定されます。ASMI を使用してこのパスワードを変更する場合は、その変更は即時に有効になります。

注：IPMI パスワードは、いずれの OPAL サポート・システムでも変更または再設定することができます。

パスワードを変更するには、以下の手順を実行します。

注：セキュリティの手段として、「現在のユーザーの現在のパスワード」フィールドに、現在のユーザーのパスワードを入力する必要があります。このパスワードは、変更しようとしているユーザー ID のパスワードではありません。

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**ログイン・プロファイル**」を展開します。
3. 「**パスワードの変更**」を選択します。
4. 必要な情報を指定して、「**続行**」をクリックします。

ASMI ログイン監査のリトリブ

ASMI へのログイン・ヒストリーを表示して、最新の正常なログイン 20 と失敗した最新のログイン 20 を確認できます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ログイン監査をリトリブするには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**ログイン・プロファイル**」を展開します。
3. 「**ログイン監査のリトリブ (Retrieve Login Audits)**」を選択します。コンテンツ・ペインにログイン・ヒストリーが表示されます。

ユーザー・アクセス・ポリシーの表示

ASMI のユーザー・アクセス・ポリシーを表示することができます。

このタスクについて

ASMI 内で各ユーザーに関連付けされたアクセス・レベルを表示することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ユーザー・アクセス・ポリシーを表示するには、次の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**ログイン・プロファイル**」を展開します。
3. 「**ユーザー・アクセス・ポリシー**」を選択します。コンテンツ・ペインに「ユーザー・アクセス・ポリシー」が表示されます。

ASMI のデフォルト言語の変更

Advanced System Management Interface (ASMI) Web およびテレタイプ (TTY) のメニューの表示に使用する言語を選択します。

このタスクについて

ASMI にログインする前、またはログイン時に代替する言語を選択しなければ ASMI セッション中に、「ASMI へようこそ」画面に表示される言語を選択できます。インターフェースを表示するために選択した言語に関係なく、必要なすべての入力英語の文字で入力する必要があります。

注: ASMI にログインする前に「ASMI へようこそ」ペインに表示されるメニューから必要な言語を選択することによって、各 ASMI セッションの言語を選択できます。

この操作を実行するためには、以下の権限レベルのいずれかを持っている必要があります。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

デフォルトの言語を変更するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**ログイン・プロファイル**」を展開します。
3. 「**デフォルト言語の変更 (Change Default Language)**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、必要なデフォルト言語を選択して「**設定の保管**」をクリックします。

インストールした言語の更新

サービス・プロセッサにインストールする追加の言語を選択します。

このタスクについて

サービス・プロセッサで利用できる言語は、一時点で最大 5 つです。デフォルトでは、常に「英語」がインストールされます。言語のインストールの変更は、ファームウェアの更新時に有効になります。

注: インターフェースを表示するために選択した言語に関係なく、必要なすべての入力英語の文字で入力する必要があります。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

インストールした言語を更新するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**ログイン・プロファイル**」を展開します。
3. 「**インストールした言語の更新 (Update Installed Languages)**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、必要な言語を選択して「**設定の保管**」をクリックします。

ASMI の使用によるサーバーの管理

必要な権限レベルで正常にログインできた場合、ASMI を使用して多くのタスクを実行できます。

サービス・プロセッサと ASMI は、すべての Power Systems サーバーで標準です。

関連概念

ASMI 権限レベル

ASMI を使用してサービス・プロセッサのメニューにアクセスする場合、いくつかの権限レベルを使用できます。

システム情報の表示

重要プロダクト・データ (VPD)、永続ストレージ、システム電源制御ネットワーク (SPCN) のトレース・データ、および進行インジケータ・データなどのシステム情報を表示します。

注: ファームウェア更新ライセンス・キーの有効期限は、常に ASMI 状況ページの右上隅に表示されています。

重要: ブラウザーで「戻る」をクリックすると、古いデータが表示される場合があります。最新のデータを表示するには、ナビゲーション・ペインから必要な項目を選択します。

重要プロダクト・データの表示

選択された重要プロダクト・データ (VPD) またはすべての製造元の VPD (例えば、シリアル番号と部品番号) を表示します。

このタスクについて

現在進行中のブートより 1 つ前のシステム・ブートで保管された製造元の重要プロダクト・データ (VPD) を表示することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 一般

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

VPD を表示するには、次の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開して、「**重要プロダクト・データ**」を選択します。
3. システムに存在する現場交換可能ユニット (FRU) のリストおよびその説明が表示されます。表示したい単一の FRU または複数の FRU をこのリストから選択します。
4. 「**追加の詳細**」をクリックして、選択した FRU の詳細を表示するか、または「**すべての詳細を表示**」をクリックして、すべての VPD エントリーの詳細を表示します。

永続ストレージの表示

レジストリーのコンテンツを表示する方法について説明します。

このタスクについて

レジストリーのコンテンツを表示することによって、障害のあるシステムから追加のデバッグ情報を収集することができます。「レジストリー・キー」という用語は、文脈によって、レジストリー項目のキー部分またはレジストリー項目全体を参照することがあります。レジストリー・キー階層および任意のキーのコンテンツを ASCII 形式および 16 進形式の両方で表示することができます。

各レジストリー項目は 2 つの部分からなるキーによって識別されます。最初の部分はコンポーネント名で、2 番目の部分はキーの名前です。例えば、「TerminalSize」キーの「esw_menu」コンポーネントは、「menu/TerminalSize」として識別されます。各レジストリー・キーは値も持ちます。その値は最大 255 バイトのバイナリー・データです。

永続ストレージを表示するには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーでなければなりません。

レジストリー・コンテンツのコンポーネント名を表示するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開して、「**永続ストレージ**」を選択します。
3. コンポーネント名をクリックして、レジストリー項目のリストを表示します。
4. 表示したいレジストリー項目をクリックして、レジストリー項目のコンテンツを表示します。

ファイルシステムの表示

使用中のファイルシステムを表示します。

このタスクについて

現在使用中のファイルシステムを表示することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ファイルシステムを表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開して、「**ファイルシステム**」を選択します。
3. システムに存在するファイルシステムおよびそれらの説明が表示されます。

SPCN トレースの表示

プロセッサ・サブシステムまたはサーバー・ドロワーからダンプされたシステム電源制御ネットワーク (SPCN) トレース・データを表示します。

このタスクについて

追加のデバッグ情報を収集するために、プロセッサ・サブシステムまたはサーバー・ドロワーから、システム電源制御ネットワーク (SPCN) トレース・データをダンプすることができます。トレースの生成には、ご使用のシステム・タイプおよび構成により、非常に長時間を要することがあります。この遅延は、システムがデータを照会するのに必要な時間の量によります。

重要: トレースを生成するには時間がかかるので、このオプションは IBM 認定サービス・プロバイダーによって推奨された場合にのみ選択してください。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

このトレース・データを表示するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開して、「**電源制御ネットワーク・トレース**」を選択します。トレース・データは、2 カラムの単一連続データで表示されます。
3. 左側のカラムに生のバイナリー・データが、右側のカラムにそれを ASCII 変換したものが表示されます。

前のブートからの進行インジケータの表示

前のシステム・ブートからのブート進行インジケータを表示する方法を理解します。障害を起こした前のブート中にコントロール・パネルに表示された進行インジケータを表示することができます。

このタスクについて

正常終了のブート中に、前の進行インジケータはクリアされます。ブートが正常終了した後でこのオプションを選択した場合は、何も表示されません。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

進行インジケータ情報は不揮発性のメモリーに保管されます。コントロール・パネル上の「電源オン」ボタンを使用してシステムを電源オフした場合は、この情報は保持されます。AC 電源がシステムから切断された場合は、この情報は失われます。

前のブートからの進行インジケータを表示するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開します。
3. 「**前のブートの進行インジケータ**」を選択します。結果がコンテンツ・ペインに表示されます。

進行インジケータ・ヒストリーの表示

最後のブート中にコントロール・パネル画面に表示された進行コードを表示することができます。このコードは日時逆順に表示されます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

進行インジケータ・ヒストリーを表示するには、次の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開します。
3. 「**進行インジケータ・ヒストリー**」を選択します。
4. 追加の詳細を表示するために表示する進行インジケータを選択して、「**詳細表示**」をクリックします。進行インジケータ・コードが上 (最新) から下 (最古) にリストされます。

リアルタイム進行インジケータの表示

コントロール・パネルに現在表示されている進行コードおよびエラー・コードを見ることができます。進行コードとエラー・コードの表示は、ブート関連の問題を診断する上で役立ちます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

進行インジケータを表示するには、次の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開します。
3. 「**リアルタイム進行インジケータ (Real-time Progress Indicator)**」を選択して、現在の進行コードとエラー・コードが含まれる小さなボックスを表示します。このときにコントロール・パネルに値が設定されていない場合、小さなボックスは表示されますが、空のままです。

メモリー・データの表示

次のレベルのサポートが、相手先商標製造会社 (OEM) の DIMM との競合を予測する場合、サポートがこの手順の実行をお願いする可能性があります。

メモリー・データを表示するには、次の手順を完了します。

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開します。
3. 「**シリアル・メモリー検出データ**」オプションを選択して、システムに取り付けられている OEM DIMM に関する一般情報を表示します。レポートが表示されます。次のレベルのサポートがその結果を解釈できます。

ファームウェア・メンテナンス・ヒストリーの表示

ファームウェア・メンテナンス・ヒストリーを表示することができます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ファームウェア・メンテナンス・ヒストリーを表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開します。
3. 「**ファームウェア・メンテナンス・ヒストリー**」を選択して、ファームウェアのヒストリーを表示します。

メモリー・データの表示

システムのメモリー・データを表示します。

このタスクについて

システムのメモリー eRepair データを表示することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

VPD を表示するには、次の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム情報**」を展開して、「**メモリー eRepair データ (Memory eRepair Data)**」を選択します。
3. システムに存在するメモリー・データのリストおよびその説明が表示されます。

システム構成の変更

カスタム・システム構成を表示および実行します。カスタム・システム構成には、PCI (Peripheral Component Interconnect) エラー注入ポリシーの使用可能化、システム識別情報の表示、およびメモリ構成の変更などがあります。

システム名の変更

システムを識別するために使用する名前を変更することができます。この名前は、お客様のオペレーション・チーム (例えば、システム管理者、ネットワーク管理者、または許可されたサービス・プロバイダーなど) がご使用のサーバーの場所、構成、およびヒストリーをより迅速に識別するのに役立ちます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

システム名は 31 文字の値、Server-tttt-mm-SNoooooooo、に初期化されています。ここで、置換文字は以下の意味を持ちます。

文字	説明
tttt	マシン・タイプ
mmm	型式番号
oooooooo	シリアル番号

システム名は、任意の有効な ASCII 文字列に変更することができます。その場合、初期化されたフォーマットに従う必要はありません。

システム名を変更するには、以下の手順を完了します。

手順

1. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
2. 「**システム名**」を選択します。
3. 前の命名規則を使用して、指定するシステム名を入力します。
4. 「**設定の保管**」をクリックして、システム名を新しい値に更新します。

タスクの結果

新しいシステム名が状況フレームに表示されます。この領域には「ログアウト」ボタンが配置されています。HMC などの他の方法を使用してシステム名を変更した場合は、この状況フレームには変更は反映されません。

入出力エンクロージャーの構成

さまざまな入出力エンクロージャー属性を表示および変更します。

このタスクについて

サーバー・ファームウェアがスタンバイ 状態または実行 状態になった後で、次のようにすると、以下の入出力エンクロージャーを構成することができます。

- ロケーション・コード、ラック・アドレス、装置アドレス、電源制御ネットワーク ID、マシン・タイプとシステム内の各エンクロージャーのモデルをリストします。
- 各エンクロージャー上の識別インジケータ状態を「識別」または「オフ」に変更します。
- 電源制御ネットワーク ID、エンクロージャーのシリアル番号、およびマシン・タイプと各エンクロージャーのモデルを更新します。

- エンクロージャー内の SPCN ファームウェアの識別インジケータ状態を「使用可能」または「使用不可」に変更します。
- システム内のアクティブでないすべてのエンクロージャーのラック・アドレスと装置アドレスを除去します。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

入出力エンクロージャーを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開して、「**入出力エンクロージャーの構成**」を選択します。
3. エンクロージャーおよび必要な操作を選択します。「**設定の変更**」を選択した場合は、「**設定の保管**」をクリックして操作を完了します。

時刻の変更

システムの現在の日付と時刻を表示および変更することができます。時刻は UTC (協定世界時) として保管されます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

注: システムの電源がオフのときにのみ、時刻を変更できます。システムの電源がオンになっているとき、時刻情報が表示され、それを変更することはできません。

時刻を変更するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**時刻**」を選択します。システムの電源がオフの場合、コンテンツ・ペインに、現在の日付 (日、月、年) と時刻 (時、分、秒) を示す書式が表示されます。
4. 日付値または時刻値、あるいは両方を変更して、「**設定の保管**」をクリックします。

System i モデルでのファームウェア更新ポリシーの表示

System i モデルを使用している場合、ハードウェア管理コンソール (HMC) から、あるいは IBM i オペレーティング・システムを使用してファームウェア更新ポリシーを表示することができます。

このタスクについて

これらのオプションは、HMC で管理されている System i モデルを使用する場合にのみ有効です。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ファームウェア更新ポリシーを表示するには、次の手順を完了します。

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**ファームウェア更新ポリシー**」を選択します。

関連情報

[ファームウェアのフィックスの入手](#)

PCI エラー・ポリシーの変更

PCI カードに強制的にエラーを注入する PCI エラー注入ポリシーを変更します。

このタスクについて

PCI バスへのエラー注入を使用可能に設定または使用不可に設定することができます。例えば、デバイス・ドライバーを開発する独立ソフトウェア・ベンダーは、エラーを注入してデバイス・ドライバー内のエラー処理コードをテストすることができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

注: エラーを注入するには、PCI バスについての詳しい知識に加えて、特殊なハードウェアが必要になります。

PCI エラー注入ポリシーを使用可能に設定または使用不可に設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**PCI エラー注入ポリシー**」を選択します。
4. 右側のペインで、「**使用可能**」または「**使用不可**」を選択します。
5. 「**設定の保管**」をクリックします。

モニターの構成

サーバー・ファームウェア、HMC、およびサービス・プロセッサの接続をモニターできるように構成します。

このタスクについて

サービス・プロセッサがシステムをモニターできるように、また、システムがサービス・プロセッサをモニターできるように構成することができます。いろいろなモニター・オプションを使用可能にすることによって、システムが電源オフ 状態、IPL 状態、および実行中 状態のときに、サービス・プロセッサは重要なシステム・コンポーネントが機能していることを確認することができます。

モニターを構成するには、IBM 認定サービス・プロバイダーの権限レベルが必要です。

モニターはハートビート と呼ばれる定期的なサンプリングによって行われます。ハートビートにより、サービス・プロセッサ、HMC、またはサーバー・ファームウェアの接続障害を検出することができます。例えば、サービス・プロセッサ接続モニターが使用可能の場合、各サービス・プロセッサは冗長サービス・プロセッサ通信をモニターして、他のサービス・プロセッサの状態を追跡します。サービス・プロセッサが他のサービス・プロセッサからのハートビートを検出できない場合、ハートビートを開始したサービス・プロセッサは、この通信障害によるエラーをログに記録します。この状態が持続する場合、サービス・プロセッサはマシンの電源をオンにしたままで、エラーをログに記録し、リカバリーを実行します。

モニターを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**モニター**」を選択します。
4. 「**使用可能**」または「**使用不可**」をサーバー・ファームウェア、サービス・プロセッサ接続モニター、および HMC に対して選択します。すべての接続モニター・フィールドはデフォルトでは使用可能です。
5. 「**設定の保管**」をクリックします。オペレーティング・システムが次回起動するまで、モニターは有効になりません。

HSL OptiConnect 接続の数の変更

IBM i オペレーティング・システムを使用している場合は、ご使用システムで許可されている高速リンク (HSL) OptiConnect 接続の最大数を表示および変更することができます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

HSL OptiConnect 接続の数を変更するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**HSL OptiConnect 接続**」をクリックします。
4. 「**カスタム**」フィールドに新しい値を入力するか、システムで使用が許可されている HSL OptiConnect 接続の最大数をシステムが自動的に決定できるように「**自動**」を選択します。
5. 「**設定の保管**」をクリックします。

メモリー割り当ての変更

「入出力アダプターの容量の拡大」タスクを使用可能または使用不可にします。使用可能にすると、指定した PCI スロットに割り当てる PCI メモリー・スペース量を増加させることができます。

このタスクについて

指定した PCI スロット用に入出力アダプター・メモリー量を増加させることができます。「**入出力アダプターの容量の拡大 (I/O Adapter Enlarged Capacity)**」オプションを使用可能にした場合、PCI スロットに対し使用可能な最大のメモリー・マップ・アドレス・スペースを受け付けるよう指定することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

入出力アダプターのメモリー割り当てを使用可能または使用不可に設定するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**入出力アダプターの容量の拡大 (I/O Adapter Enlarged Capacity)**」を選択します。

4. コンテンツ・ペインで、「使用可能」または「使用不可」を選択します。「**入出力アダプターの容量の拡大 (I/O Adapter Enlarged Capacity)**」を使用可能に設定するとき、使用可能にするスロットの数を指定する必要があります。
5. 「**設定の保管**」をクリックします。

HMC 接続データの除去

切断された HMC データを表示して除去します。

このタスクについて

デフォルトで、HMC 接続データは HMC が切り離されて 14 日後には管理対象システムで期限切れになります。管理対象システムからすべての HMC を切り離す必要があるタスクを実行する場合は、14 日後の期限切れ前に HMC 接続データを除去することができます。

HMC を切り離すには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

HMC を切り離すには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**ハードウェア管理コンソール**」を選択します。
4. 必要な「HMC」を選択します。
5. 「**接続の除去**」をクリックします。

仮想入出力接続の構成

この設定は、区画間のすべての仮想入出力接続を使用可能または使用不可にするために使用します。この設定を使用不可にすると、ハードウェア管理コンソールを対象とする仮想 TTY セッションだけが許可されます。

仮想入出力接続の管理

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、仮想入出力接続のポリシーを設定します。

始める前に

このタスクについて

この構成設定を指定することにより、区画間の仮想入出力アクティビティを制御することができます。ポリシーはデフォルトで使用可能に設定されています。そのため、区画間ですべての仮想入出力接続が可能です。この設定が使用不可の場合は、ハードウェア管理コンソール (HMC) への仮想端末タイプ (TTY) セッションのみが可能です。

重要: ポリシー設定を変更する前に、システムの電源をオフにします。権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

仮想入出力接続のポリシーを設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で「**システム構成**」を展開し、「**仮想 I/O 接続**」をクリックします。
3. 「**有効**」または「**無効**」を選択して、設定を変更します。
4. 「**設定の保管**」をクリックします。

関連情報

[仮想アダプター](#)

論理区画の仮想リソースの構成

ファームウェアご使用条件の表示

ファームウェアご使用条件を表示することができます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ファームウェアご使用条件を表示するには、次の手順を完了します。

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**ファームウェアご使用条件 (Firmware License Agreement)**」を選択します。

浮動小数点テストの実行

構成の設定を使用すれば、浮動小数点単位計算テストをいつ実行したいのかを制御することができます。即時に実行、または各種の場合に実行するように設定できます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

このテストをいつ実行するか指定するには、以下の手順を完了してください。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開して、「**浮動小数点ユニット計算テスト**」をクリックします。
3. コンテンツ・ペインから希望する設定を選択し、「**設定の保管**」または「**テストの即時実行 (Run the test immediately)**」をクリックします。

仮想トラステッド・プラットフォーム・モジュールの構成

仮想トラステッド・プラットフォーム・モジュールの構成方法を説明します。

このタスクについて

仮想トラステッド・プラットフォーム・モジュールを構成することができます。

仮想トラステッド・プラットフォーム・モジュールを構成するには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

仮想トラステッド・プラットフォーム・モジュールを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**仮想トラステッド・プラットフォーム・モジュール (Virtual Trusted Platform Module)**」を選択します。

4. 「使用可能」または「使用不可」を選択します。
5. 「設定の保管」をクリックします。

ハイパーバイザー・ディスパッチ・ホイール・タイムの構成

ハイパーバイザー・ディスパッチ・ホイール・タイムの構成方法を説明します。

このタスクについて

ハイパーバイザー・ディスパッチ・ホイール・タイムを構成することができます。

ハイパーバイザー・ディスパッチ・ホイール・タイムを構成するには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

ハイパーバイザー・ディスパッチ・ホイール・タイムを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**ハイパーバイザー・ディスパッチ・ホイール・タイム (Hypervisor Dispatch Wheel Time)**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、必要に応じて選択可能なオプションを更新します。
5. 「**設定の保管**」をクリックします。

PCIe ハードウェア・トポロジーの構成

Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) リンクを管理対象システム用に構成することができます。リンクを構成するケーブル、および特定のリンクのインジケータの属性の表示や、リカバリー操作のためのリンクのリセットも行えます。

このタスクについて

PCIe ハードウェア・トポロジー (リンク・タイプ、リンク状況、リンク幅など) を構成することができます。

PCIe ハードウェア・トポロジーを構成するには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

PCIe ハードウェア・トポロジーを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**PCIe ハードウェア・トポロジー**」をクリックします。
4. コンテンツ・ペインで、必要に応じて選択可能なオプションを更新します。
リンクのその他の詳細を表示するには、目的のリンクを選択して、以下のオプションをクリックします。

識別インジケータ

選択したリンクと関連付けられた FRU およびコネクタの識別インジケータを活動化または非活動化します。

ケーブルの属性

特定のリンクと関連付けられているケーブルの属性を表示します。

リンクのリセット

リンクのリカバリーのためにリンクをリセットします。

注:「リンクのリセット」オプションは、**celogin** アカウントについてのみ使用できます。

5.「保管」をクリックします。

ハードウェア・ページ・テーブル・サイズの構成

ハードウェア・ページ・テーブル・サイズの構成方法を説明します。

このタスクについて

ハードウェア・ページ・テーブル・サイズを構成することができます。

ハードウェア・ページ・テーブル・サイズを構成するには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

ハードウェア・ページ・テーブル・サイズを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

- 1.「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
- 2.ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
- 3.「**ハードウェア・ページ・テーブル・サイズ (Hardware Page Table Size)**」を選択します。
- 4.コンテンツ・ペインで、必要に応じて選択可能なオプションを更新します。
- 5.「**設定の保管**」をクリックします。

ファームウェアの構成

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、システム上にファームウェアを構成することができます。

このタスクについて

注:このタスクは、ファームウェア・タイプを OPAL として使用しているシステム上でのみ使用可能です。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ファームウェアを構成するには、次のステップを実行します。

手順

- 1.「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
- 2.ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
- 3.「**ファームウェア構成 (Firmware Configuration)**」をクリックします。
- 4.「**ファームウェア・タイプ**」リストから、「**PowerVM**」または「**OPAL**」を選択します。必要に応じて、使用可能な構成を更新します。
- 5.「**設定の保管**」をクリックして、ファームウェア構成を保管します。

概算の腐食率の表示

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、システムの概算の腐食率を表示することができます。

このタスクについて

概算の腐食率は、システムの腐食センサーから読み取られます。これは、読み取り専用値です。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者

- 認定サービス・プロバイダー

概算の腐食率を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**概算の腐食率 (Estimated Corrosion Rates)**」を選択します。

コンソール・タイプの選択

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、コンソール・タイプを選択することができます。

このタスクについて

コンソール・タイプは、**IPMI** または **Serial** として選択できます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

コンソール・タイプを選択するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**コンソール・タイプ (Console Type)**」をクリックします。
4. 「**IPMI**」または「**Serial**」を選択します。
5. 「**設定の保管**」をクリックして、現在の構成を保管します。

予測メモリーの割り振り解除の設定

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、予測メモリーの割り振り解除を使用可能または使用不可に設定することができます。

このタスクについて

予測メモリーの割り振り解除が使用可能である場合、システムは、最適パフォーマンスを提供するために、メモリーの割り振りを自動的に解除します。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

予測メモリーの割り振り解除を使用可能または使用不可に設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**予測メモリーの割り振り解除 (Predictive Memory Deallocation)**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、「**使用可能**」または「**使用不可**」を選択します。
5. 「**設定の保管**」をクリックします。

投機的実行制御

セキュリティの脆弱性では、投機的実行を使用してサイド・チャネル情報開示攻撃が実行されます。個々のセキュリティ標準に合うように、投機的実行制御を1つのシステム・レベルとして使用することができます。

このタスクについて

投機的実行制御の設定は、システムが「スタンバイ」状態のときにのみ行えます。ご使用のシステムに対する必要な投機的実行制御を選択するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」 > 「**投機的実行制御**」と展開します。
3. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - ・ **ユーザーからカーネルへのサイド・チャネル攻撃間およびユーザー間のサイド・チャネル攻撃を緩和するための投機的実行制御:** 信頼できないコードへの、ハイパーバイザー、オペレーティング・システム、およびユーザー・アプリケーション・データの露出を緩和するため。
 - ・ **ユーザーからカーネルへのサイド・チャネル攻撃を緩和するための投機的実行制御:** 権限が低いコードがオペレーティング・システムの機密事項にアクセスする脅威を軽減するため。
 - ・ **完全に有効な投機的実行:** ハイパーバイザー、オペレーティング・システム、およびアプリケーションが完全に信頼できるシステムの場合。
4. 「**設定の保管**」をクリックして、変更内容を保管します。

関連資料

[「Spectre」および「Meltdown」に対する POWER9 サーバーの保護](#)

「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性からシステムを保護するために、リソースを使用できます。

高周波数ポリシーを使用した周波数と電圧の設定

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、高周波数ポリシーを使用可能または使用不可に設定することができます。

始める前に

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか1つが必要です。

- ・ 管理者
- ・ 認定サービス・プロバイダー

このタスクについて

高周波数ポリシーが使用可能に設定されている場合、ネスト周波数および電圧を設定してパフォーマンスを向上させることができます。

注: 高頻度取引機能が使用可能に設定されている場合、以下の機能は使用不可です。

- ・ オンチップ・コントローラー (OCC)
- ・ システムをハードウェア障害から保護する機能 (Gard と呼ばれます)

高周波数ポリシーを使用可能または使用不可に設定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**高周波数ポリシー**」をクリックします。

4. 「高周波数ポリシー」 リストから、「使用可能」または「使用不可」を選択します。
5. 「設定の保管」をクリックします。

ハードウェアの構成解除

構成解除ポリシーの設定、プロセッサ構成の変更、メモリー構成の変更、構成解除済みリソースの表示、およびすべての構成解除エラーのクリアを行います。

ハードウェアの構成解除は、サービス・ファームウェアが実行状態にある間は実行できません。

構成解除ポリシーの設定

さまざまなプロセッサおよびメモリーの構成と構成解除ポリシーを設定します。

このタスクについて

さまざまなポリシーを設定して、特定の状態でプロセッサおよびメモリーを構成解除することができます。障害が起こったときにプロセッサを構成解除するポリシーを使用可能に設定できます。ここでいう障害には、予測障害（例えば、プロセッサがしきい値を超えたときに生成される訂正可能エラー）があります。処理装置（ノードとも呼ばれます）内のいずれかのリソースが構成解除されている場合、並行メンテナンスを行うためにファームウェアによってそのノードの電源をオフにすることもできます。フィールド・コア・オーバーライド値も設定できます。

構成解除ポリシーまたはフィールド・コア・オーバーライド値を設定するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。構成解除ポリシーの表示は、どのユーザーでも行うことができます。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

構成解除ポリシーまたはフィールド・コア・オーバーライド値を設定するには、次の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」 > 「**ハードウェア構成解除**」を展開します。
3. 「**構成解除ポリシー**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、ポリシーごとに「**使用可能**」または「**使用不可**」を選択します。
5. 「**設定の保管**」をクリックします。

フィールド・コア・オーバーライド機能の概要

新規システムと共にフィーチャー・コード 2319（工場における 1 つのコアの構成解除）が発注されると、工場ではフィールド・コア・オーバーライド機能を使用してプロセッサ・コアの数を減らします。

このタスクについて

特定の IBM Power Systems サーバーでは、フィールド・コア・オーバーライド機能は拡張システム管理インターフェース (ASMI) で使用できます。このフィーチャー・コードは新規システムの発注時に発注する必要があり、システムの取り付け後に各種装置仕様 (MES) として発注することはできません。このフィーチャー・コードにより、工場では、ソフトウェア・ライセンス交付の費用を削減するためにシステム内のアクティブ・プロセッサ・コアの数を減らします。フィーチャー・コード 2319 を発注するたびに、プロセッサ・コアの数が 1 個ずつ減らされます。

フィールド・コア・オーバーライド機能は、システム内でアクティブなコアの数を示します。フィールド・コア・オーバーライド機能を使用すると、システム内のアクティブ・プロセッサ・コアの数を増減できます。システム・ファームウェアは、アクティブ・プロセッサ・コアの数を入力された値に設定します。この値は、次のシステム・ブート動作で有効になります。フィールド・コア・オーバーライド値は、システムの電源がオフのときのみ変更可能です。

システム上のワークロードが増加したためにアクティブ・プロセッサ・コアの数を増やすには、この機能を使用する必要があります。例えば、8 個のアクティブ・プロセッサ・コアを搭載するシステムについて考えてみます。システムの発注時に 6 個のフィーチャー・コードが発注されました。これにより、アク

ティブ・コアの数が2個に減りました。システム上のワークロードが増加したため、2個の追加コアを活動化してアクティブ・コアの合計数を4個にする場合、フィールド・コア・オーバーライド値を4に設定します。新しい値は次のシステム・ブート動作で有効になります。システム・ブート動作の後に、論理区画へのプロセッサの割り振りを見直す必要があります。

複数のプロセッサ・コアを構成すると、システムは単一のコアで稼働を続行し、そのコアは、リカバリーされたエラーのしきい値を超えたこと、またはリカバリー不能のマシン・チェックが原因で、実行時に構成解除されます。フィールド・コア・オーバーライド機能は、システムの電源がオンにされたときにコア数に影響を与えます。プロセッサ・コアで実行時エラーが発生した場合、フィールド・コア・オーバーライド機能はシステム上の残りのコアには影響を与えません。プロセッサ・コアの実行時エラー後の次のブート動作時に、システムはそのコアを構成解除し、前回のブートでフィールド・コア・オーバーライド値によって活動化されていないスペア・コアを使用します。

注: フィールド・コア・オーバーライド機能を使用してプロセッサ・コアを追加したら、システム・レコードを維持するために MES の発注を処理する必要があります。

重要プロダクト・データ (VPD) カードおよびサービス・プロセッサを交換した場合は、フィールド・コア・オーバーライド値を再入力する必要があります。プロセッサ・カードを追加したら、フィールド・コア・オーバーライド値を構成済みコアの数に設定する必要があり、追加後のシステムのソフトウェア・ライセンスの数がソフトウェアの契約条件に準拠していることを確認することも必要です。

ASMI のプロセッサ構成解除機能では、フィールド・コア・オーバーライド機能によって構成解除されたコアは「システム構成解除済み (system deconfigured)」として表示され、エラー・タイプは「関連付けによる (By Association)」として表示されます。プロセッサ・コアに障害が起き、プロセッサ・コアがシステムによって構成解除された場合、エラー・タイプは「致命的 (Fatal)」または「予測 (Predictive)」として表示され、「関連付けによる (By Association)」とは表示されません。

フィールド・コア・オーバーライド値の設定

新規システムと共にフィーチャー・コード 2319 (工場における1つのコアの構成解除) が発注され、フィールド・コア・オーバーライド値が設定されると、工場ではプロセッサ・コアの数を減らします。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか1つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

フィールド・コア・オーバーライド値を設定するには、以下の手順を完了します。

1. システムが電源オフになっていることを確認します。
2. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
3. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」 > 「**ハードウェア構成解除**」を展開します。
4. 「**フィールド・コア・オーバーライド (Field Core Override)**」をクリックします。
5. 構成が必要なプロセッサの総数を入力します。1 から、システム内のプロセッサ・コアの総数までの範囲の数値を入力します。
6. 「**設定の保管**」をクリックします。

プロセッサ・コアが構成解除された理由の判別

フィールド・コア・オーバーライド機能が指示されたために、ハードウェア障害を理由とせずにプロセッサ・コアが構成解除される場合があります。

プロセッサ構成解除の理由を検証するには、以下の手順を完了します。

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」 > 「**エラー/イベント・ログおよびシステム・サービス・エイド (Error/Event Logs and System Service Aids)**」 および 「**構成解除レコード (Deconfiguration Records)**」を展開します。

3. プロセッサ関連のエラー・ログ・エントリを表示します。プロセッサ関連のエラー・ログ・エントリが見つからない場合、プロセッサ・コアはフィールド・コア・オーバーライド機能が指示されたために構成解除されました。

注：システムの電源がオフで、サービス・プロセッサが待機モード中の場合、ASMI にアクセスし、「システム構成」>「ハードウェア構成解除」>「フィールド・コア・オーバーライド (Field Core Override)」をクリックすると、システム内の、電源がオンになるフィールド・コア・オーバーライド・コアの総数が表示されます。このオプションは実行時には使用できません。

例: プロセッサ・コアが構成解除された理由
以下の例に、プロセッサ構成解除の理由を示します。

例 1: フィールド・コア・オーバーライド機能が使用可能になっており、待機モード中のプロセッサ・エラーがない

次の表に、待機モード中のフィールド・コア・オーバーライド値の例を示します。

表 5: フィールド・コア・オーバーライド値.	
フィールド	値
現行のフィールド・コア・オーバーライド (FCO) 設定	5
要求された FCO 設定	5

注：FCO 値は、1 から 8 の範囲内になければなりません。

「システム・サービス・エイド」>「構成解除レコード (Deconfiguration Records)」ウィンドウ内で、プロセッサ構成解除レコードが空白であれば、プロセッサがフィールド・コア・オーバーライド機能のみにより構成解除されたことを示します。

次の表に、フィールド・コア・オーバーライド機能のみにより構成解除されたプロセッサ・コアの例を示します。プロセッサには、ハードウェア・エラーはありません。

表 6: プロセッサ構成解除.				
処理装置: 0				
プロセッサ ID	ロケーション・コード	状態	エラー・タイプ	設定の変更
0	U78AA.001.WZSG334-P1-C11	構成済み	なし (0)	構成済み
1	U78AA.001.WZSG334-P1-C11	構成済み	なし (0)	構成済み
2	U78AA.001.WZSG334-P1-C11	構成済み	なし (0)	構成済み
3	U78AA.001.WZSG334-P1-C11	構成済み	なし (0)	構成済み
4	U78AA.001.WZSG334-P1-C11	構成済み	なし (0)	構成済み
5	U78AA.001.WZSG334-P1-C11	FCO 構成解除済み	なし (0)	適用外
6	U78AA.001.WZSG334-P1-C11	FCO 構成解除済み	なし (0)	適用外
7	U78AA.001.WZSG334-P1-C11	FCO 構成解除済み	なし (0)	適用外

例 2: フィールド・コア・オーバーライド機能が使用可能になっており、実行時にプロセッサ・エラーがない

次の表に、プロセッサ・エラーが理由でリソースが保護されている例を示します。システム参照コード (SRC) に留意してください。

表 7: 構成解除レコード.			
構成解除された装置の総数: 3			
装置	装置タイプ	エラー・タイプ	SRC
0	ファブリック	予測 (E6)	B114E504
1	L2 コントローラー	予測 (E6)	B112E504
2	プロセッサ PSI	予測 (E6)	B15CE504

次の表では、初期プログラム・ロード (IPL) 時にフィールド・コア・オーバーライド機能が起動された後、実行時のハードウェア・エラーが理由でプロセッサ・コアが構成解除された場合を示します。

表 8: プロセッサ構成解除.				
処理装置: 0				
プロセッサ ID	ロケーション・コード	状態	エラー・タイプ	設定の変更
0	U78AA.001.WZS G334-P1-C11	システム 構成解除済み	なし (EF)	構成解除済み
1	U78AA.001.WZS G334-P1-C11	システム 構成解除済み	なし (EF)	構成解除済み
2	U78AA.001.WZS G334-P1-C11	システム 構成解除済み	なし (EF)	構成解除済み
3	U78AA.001.WZS G334-P1-C11	構成済み	なし (0)	構成済み
4	U78AA.001.WZS G334-P1-C11	構成済み	なし (0)	構成済み
5	U78AA.001.WZS G334-P1-C11	FCO 構成解除済み	なし (0)	適用外
6	U78AA.001.WZS G334-P1-C11	FCO 構成解除済み	なし (0)	適用外
7	U78AA.001.WZS G334-P1-C11	FCO 構成解除済み	なし (0)	適用外

注:

- プロセッサ ID 「0」、「1」、および「2」について、プロセッサ・コアの障害が理由でシステム構成解除済みであることが示されています。
- エラー・タイプ「なし (EF)」は、プロセッサ・コアの障害を示します。

プロセッサ構成の変更

データの表示方法および各プロセッサの状態を変更する方法を理解します。

このタスクについて

システムを停止させるプロセッサ障害は、たとえ偶発的であってもすべて、サービス修復のために診断呼び出しとして IBM 認定サービス・プロバイダーに報告されます。偶発的な問題の再発を防ぐためと定期

保守ウィンドウまでシステムの可用性を向上させるために、障害ヒストリーのあるプロセッサは、それ以降のブートで構成されるのを防ぐ目的で、構成解除済みのマークが付けられます。

プロセッサには、以下の状況で構成解除済みのマークが付けられます。

- プロセッサが、ブート中に、組み込みの自己診断テスト、あるいは、電源オン自己診断テストに失敗する (サービス・プロセッサによって判断される)。
- プロセッサが、実行時にマシン・チェックまたはチェック・ストップを起こし、そして、障害が明確にそのプロセッサのものと切り分けることができる (サービス・プロセッサ・ファームウェアのプロセッサ実行時診断によって判断される)。
- プロセッサが、リカバリー済み障害のしきい値に達し、その結果、サービスの予測呼び出しを行う (サービス・プロセッサ・ファームウェアのプロセッサ実行時診断によって判断される)。
- システム内で構成済みのプロセッサ・コア数を減らすために、フィーチャー・コード 2319 (工場における 1 つのコアの構成解除 (Factory deconfiguration of one core)) を注文した。

システム始動時に、サービス・プロセッサは構成解除済みのマークが付けられたプロセッサを構成しません。構成解除済みのプロセッサはハードウェア構成から除かれます。そのプロセッサは取り替えられるか、または構成解除ポリシーが使用不可にされるまで、以降のリブートではオフラインのままになります。構成解除ポリシーは、手動でプロセッサを構成解除するか、あるいは、以前に手動で構成解除されたプロセッサを再使用可能にするオプションもユーザーに提供します。この状態は、ユーザーにより構成解除済みとして表示されます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

注: プロセッサの状態は、システムの電源がオフの時にのみ変更することができます。実行時には、ユーザーは各プロセッサの状態を表示することはできますが変更することはできません。構成解除ポリシーが使用不可の場合は、プロセッサの状態を変更することはできません。

プロセッサ構成を表示または変更するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」 > 「**ハードウェア構成解除**」を展開します。
3. 「**プロセッサ構成解除**」を選択します。
4. 右側のペインで、表示されたノードのリストから 1 つのノードを選択します。
5. そのノードが既にシステムによって構成解除されていない場合は、「**続行**」をクリックして、各プロセッサの状態を構成済みまたは構成解除済みに変更します。
6. システムをリブートして変更を有効にします。

メモリー構成の変更

各メモリー装置およびバンクのデータを表示します。各バンクの状態を変更することができます。

このタスクについて

各メモリー・バンクには 2 つの DIMM (Dual Inline Memory Module) が入っています。ファームウェアが 1 つの DIMM の障害、または予測可能な障害を検出した場合は、その障害のある DIMM をメモリー・バンク内のもう 1 つの DIMM と一緒に構成解除します。DIMM メモリーがエラー・モニターされている場合は、各メモリー・バンクは次の状態のいずれか 1 つになります。

- システムにより構成済み (cs)
- 手動で構成済み (mc)
- システムにより構成解除済み (ds)
- 手動で構成解除済み (md)

各物理 DIMM は、最大 8 個の論理 DIMM を収容することができます。それぞれの論理 DIMM は、個別に構成または構成解除することができます。

ASMI を使用して、1 つ以上の DIMM について、メモリー・バンクの状態を *cs* から *md* へ、*mc* から *md* へ、および *md* から *mc* へ変更することができます。1 つの DIMM が構成解除される場合は、そのメモリー・バンクのもう 1 つの DIMM も自動的に構成解除されます。

注：構成解除ポリシーがメモリー・ドメインに対して使用可能な場合のみ、メモリー・バンクの状態を変更できます。このポリシーが使用可能でないのに状態を変更しようとした場合は、エラー・メッセージが表示されます。

このエラー・タイプはメモリーの構成解除が原因で、*ds* 状態のバンクに適用されます。このエラー・タイプは、バンクが *ds* 状態の時にのみ、表示されます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

メモリー構成を表示または変更するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」および「**ハードウェア構成解除**」を展開します。
3. 「**メモリー構成解除**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、表示されたノードのリストから 1 つのノードを選択します。
5. そのノードが既にシステムによって構成解除されていない場合は、「**続行**」をクリックして、メモリーの状態を構成済みまたは構成解除済みに変更します。

注：メモリー・バンクの状態は、システムの電源がオフの時にのみ、変更することができます。実行時には、ユーザーは各メモリー・バンクの状態を表示することはできますが変更することはできません。構成解除ポリシー機能が使用不可の場合は、メモリー・バンクの状態を変更することはできません。

6. 「**サブミット**」をクリックします。レポート・ページが表示され、メモリー・バンク状態の変更が正常終了したか異常終了したかを示します。

処理装置の構成変更

処理装置 (ノード) のデータを表示し、状態を変更する方法を理解します。

このタスクについて

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、処理装置 (ノード) の状態を変更することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

注：このタスクは、複数ノードのシステム上でのみサポートされます。

処理装置 (ノード) の構成を表示または変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」および「**ハードウェア構成解除**」を展開します。
3. 「**処理装置の構成解除**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、ノードのリストからノードを 1 つ選択します。

5. 処理装置がまだシステムによって構成解除されていない場合は、「**続行**」をクリックして、処理装置の状態を構成済みまたは構成解除済みに変更します。

注：処理装置の状態は、システムが電源オフである場合にのみ変更することができます。実行時には、各プロセッサの状態を表示することはできますが、変更することはできません。構成解除ポリシー機能が使用不可の場合は、処理装置の状態を変更できません。

6. 「**サブミット**」をクリックします。レポート・ページに、処理装置の状態が変更されたかどうかが表示されます。

すべての構成解除エラーのクリア

システムの特定のリソースまたはすべてのリソースのエラー・レコードをクリアします。

このタスクについて

すべての構成解除エラーをクリアするには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

注：この操作を実行する前に、エラー・メッセージを記録するか、またはこのエラー・レコード・データがこれ以上必要ではないことを確認してください。そうしないと、すべてのエラー・データがハードウェア・リソースからなくなることになります。

以下の使用可能なオプション (リソース) から選択できます。

- すべてのハードウェア・リソース
- プロセッサ・ノード
- プロセッサ
- メモリー・コンポーネント
- メモリー DIMM
- I/O
- クロック
- システム・バス
- プロセッサ・サポート・インターフェース
- サービス・プロセッサ

すべての構成解除エラーをクリアするには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」および「**ハードウェア構成解除**」を展開します。
3. 「**すべての構成解除エラーのクリア**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、処理するハードウェア・リソースをメニューから選択します。
「**すべてのハードウェア・リソース**」または個々のリソースを選択することができます。
5. 「**選択したハードウェア・リソースのエラーをクリア**」をクリックします。

重要プロダクト・データのプログラミング

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用すると、システム・ブランド、システム ID、システム・エンクロージャー・タイプなどのシステムの重要プロダクト・データ (VPD) をプログラムすることができます。VPD 関連パネルのどれかにアクセスするには、権限レベルは管理者または IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

注：システム・ブランド、システム ID、およびシステム・エンクロージャー・タイプに有効な値を入力するまでは、システムをブートすることはできません。

関連タスク

[システムの電源オン/オフ](#)

さまざまな初期プログラム・ロード (IPL) パラメーターを表示およびカスタマイズします。

システム・ブランドの設定

システム・ブランドは、2文字のシステム・ブランド値を使用してご使用のシステムを識別します。

このタスクについて

次の表でご使用のシステムのシステム・ブランドを見つけてください。

表 9: システム・ブランドの値	
システム・ブランド	説明
D0	IBM ストレージ
S0	IBM Power Systems
E0	OEM システム

重要: システム・ブランドの変更は、値が設定されていない場合にのみ、あるいは現行値が **P0** で新しい値が **D0** の場合にのみ可能です。さらに、IBM ストレージの場合、ストレージにオンラインでアクセスするには、ストレージ機構を構成する各システムを **D0** に設定する必要があります。

注:

- すべてのフィールドに有効な値を入力するまでは、システムをブートすることはできません。
- サービスおよびサポートの指示のもとでのみ、この手順を使用してください。
- このフィールドは大文字小文字が区別されます。大文字を使用する必要があります。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

システム・ブランドを変更するには、次のようにします。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」および「**重要プロダクト・データのプログラム**」を展開します。
3. 「**システム・ブランド**」を選択します。コンテンツ・ペインに、現行のシステム・ブランドが表示されます。システム・ブランドが設定されていない場合は、システム・ブランドを入力するように要求されます。サービスおよびサポート指定の値を入力します。

注: このフィールドでは大/小文字の区別があるため、大文字化を使用する必要があります。

4. 「**続行**」をクリックします。ご使用のシステム・ブランド設定および次の注意が表示されます。

注意: いったん設定すると、値が 'P0' で 'D0' への変更でない限り、この値を変更することができません。

5. 「**設定の保管**」をクリックして、システム・ブランドを更新してそれを VPD に保存します。

システム・ブランド名の設定

システム・ブランド名は、システムのブランド名を指定できるようにします。

このタスクについて

注:

- システム・ブランド名を設定するオプションは、システム・ブランドの値が **E0** の場合にのみ許可されます。

- システム・ブランド名は、FSP がスタンバイ 状態の場合にのみ変更できます。

システム・ブランド名を指定するには、以下の権限レベルのいずれかを持っている必要があります。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

システム・ブランド名を指定するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」および「**重要プロダクト・データのプログラム**」を展開します。
3. 「**システム・ブランド名**」をクリックします。
4. 「**システム・ブランド名**」フィールドに、目的の名前を入力します。
システム・ブランド名の長さは、16 文字にすることができます。
5. 「**設定の保管**」をクリックして、システム・ブランドを更新し、それを重要プロダクト・データ (VPD) に保管します。

システム ID の設定

システム固有の ID、システムのシリアル番号、マシン・タイプ、およびマシン・モデルを設定します。

このタスクについて

システム固有の ID、シリアル番号、マシン・タイプ、およびマシン・モデルを設定することができます。システム固有の ID が分からない場合は、上のレベルのサポート部門に連絡を取ってください。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれかでなければなりません。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

注:

- すべてのフィールドに有効な値が入力されるまでは、システムをブートできません。
- これらの項目は 1 回だけ変更できます。
- このフィールドは大文字小文字が区別されます。大文字を使用する必要があります。

システム・キーワードを設定するには、以下の手順を完了します。

手順

1. Advanced System Management Interface (ASMI) の「ようこそ」ウィンドウで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力し、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」 > 「**重要プロダクト・データのプログラム**」を展開します。
3. 「**システム・キーワード**」を選択します。
4. 右側のペインで、ASMI ヘルプに示されている命名規則を使用して、システムのシリアル番号、マシン・タイプ、マシン・モデル、およびシステム固有 ID の値を入力します。「**予約済み**」フィールドは、サービスおよびサポートから別の指示が出されていない限り、ブランクに設定してください。
注: これらの値を設定した後は、変更できるのはマシン・モデルとシステム固有 ID のみです。
5. システム・ブランド (RB) キーワードが S0 の場合は、デフォルトの論理区画環境を定義するために RB keyword0 を設定する必要があります。(RB キーワードがこれ以外の値になっている場合は、RB keyword0 の設定はオプションです。) 有効な RB keyword0 の値は次のとおりです。

0

デフォルト値 (RB キーワードが S0 でない場合にのみ有効)

- 1
AIX
- 2
IBM i
- 3
Linux

6. IBM i 使用可能/使用不可の値が初期化されていないか変更が必要になったために BR キーワードの値を変更する場合は、新しい値を RB keyword1 に入力します。有効な RB keyword1 の値は次のとおりです。

- 1
IBM i を使用可能にする
- 2
IBM i を使用不可にする

RB keyword0 が 2 または I0 (優先オペレーティング・システムまたはデフォルトの論理区画環境が IBM iであることを示す) に設定されている場合は、RB keyword1 で有効な値は 1 (IBM i 使用可能) のみです。

7. IBM i 使用可能/使用不可の値が初期化されていないか変更が必要になったために BR キーワードの値を変更する場合は、新しい値を RB keyword1 に入力します。有効な RB keyword1 の値は次のとおりです。

- 1
IBM i を使用可能にする
- 2
IBM i を使用不可にする

RB keyword0 が 2 または I0 (優先オペレーティング・システムまたはデフォルトの論理区画環境が IBM iであることを示す) に設定されている場合は、RB keyword1 で有効な値は 1 (IBM i 使用可能) のみです。

8. 「**続行**」をクリックします。入力した設定値が、データ検証ウィンドウに表示されます。

9. 「**設定の保管**」をクリックしてシステム・キーワードを更新し、重要プロダクト・データ (VPD) に保存します。

システム・エンクロージャー・タイプの設定

システムに接続されたエンクロージャー・タイプに一意的に識別する値を設定します。

このタスクについて

システム・エンクロージャー・タイプを設定する時は、エンクロージャー・シリアル番号フィールドがオリジナルの値と一致していることを確認してください。オリジナルの値は、装置に貼られているラベルでわかります。エンクロージャー・シリアル番号フィールドを更新しても、構成情報およびエラー情報は同期が保たれ、ロケーション・コードの作成時にはこの情報がシステムによって使用されます。このタスクは、コントロール・パネルではなく、必ず ASMI を使用して行ってください。ただし、ASMI を使用できない場合は、システムはこの情報を更新しないままで作動することになります。

例えば、システム・バックプレーンを取り替える時は、オリジナルのエンクロージャー・シリアル番号をエンクロージャー・シリアル番号フィールドに再度入力して、新しいシステム・バックプレーン用に記録されるシリアル番号を上書きする必要があります。正しいエンクロージャー・シリアル番号を入力することに失敗すると、論理区画マッピングが正しくなくなる結果となります。

注：

- エンクロージャー・タイプ情報のすべてのフィールドに有効な値を入力するまでは、システムをブートすることはできません。
- このフィールドは大文字小文字が区別されます。大文字を使用する必要があります。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

システム・エンクロージャー・タイプを変更するには、次の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」 > 「**重要プロダクト・データのプログラム**」を展開します。
3. 「**システム・エンクロージャー**」を選択します。コンテンツ・ペインに、現行のシステム・エンクロージャーが表示されます。
4. エンクロージャーのラベルにある情報および ASMI ヘルプで説明されている命名規則を使用して、以下のフィールドに設定値を入力します。
 - **エンクロージャーのロケーション**
 - **フィーチャー・コード/シーケンス番号**
 - 「**エンクロージャーのシリアル番号**」: この値は、システムのシリアル番号とは異なります。エンクロージャーのシリアル番号は、システム装置の前面、上面、または背面のバーコード・ラベルに記載されています。
 - **予約済み**: 「**予約済み**」フィールドは、サービスおよびサポートから別の指示が出されていない限り、空白スペースに設定してください。
5. 「**設定の保管**」をクリックして、システム・エンクロージャー・タイプ情報を更新してそれを VPD に保存します。

サービス・インジケータの変更

システム・アテンション・インジケータをオフにして、エンクロージャー・インジケータを使用可能にし、ロケーション・コード別にインジケータを変更して、コントロール・パネルで LED テストを実行します。

サービス・インジケータは、システムに注意する必要があること、またはサービスが必要であることをユーザーに警報します。また、システム内の現場交換可能ユニット (FRU) あるいは特定のエンクロージャーを識別するための手段も提供します。

FRU インジケータとエンクロージャー・インジケータの間には階層関係が存在します。いずれかの FRU インジケータが識別状態にある場合、それに対応するエンクロージャー・インジケータは自動的に識別状態に変更されます。エンクロージャー内のすべての FRU インジケータがオフ状態になるまでは、エンクロージャー・インジケータをオフにすることはできません。

システム・アテンション・インジケータをオフにする

システム・アテンション・インジケータは、システム全体として注意またはサービスが必要であることをビジュアル・シグナルで通知します。

このタスクについて

各システムは、単一のシステム・アテンション・インジケータを備えています。ユーザーの介入、またはサービスおよびサポートの介入が必要なイベントが発生すると、システム・アテンション・インジケータが連続的に点灯します。サービス・プロセッサのエラー・ログに項目が入力されると、システム・アテンション・インジケータがオンになります。エラー項目は、システム・レベルおよびオペレーティング・システムのエラー・ログに伝送されます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

システム・アテンション・インジケータをオフにするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。

2. ナビゲーション領域で、「システム構成」および「サービス・インディケーター」を展開します。
3. 「システム・アテンション・インジケーター」を選択します。
4. 右側のペインで、「システム・アテンション・インジケーターをオフにする」をクリックします。この試行が失敗すると、エラー・メッセージが表示されます。

エンクロージャー・インジケーターの使用可能化

各エンクロージャー内の現場交換可能ユニット (FRU) インジケーターを表示および変更する方法について説明します。

このタスクについて

各エンクロージャー内の「識別」インジケーターをオン/オフすることができます。エンクロージャー はインジケーターのグループです。例えば、処理装置エンクロージャーは処理装置内のすべてのインジケーターを表し、また、入出力エンクロージャーは入出力エンクロージャー内のすべてのインジケーターを表します。エンクロージャーはそのロケーション・コードごとにリストされます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

エンクロージャー・インジケーター状態を使用可能に設定するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム構成」および「サービス・インディケーター」を展開します。
3. 「エンクロージャー・インジケーター」を選択します。
4. 処理するエンクロージャーを選択して、「**続行**」をクリックします。
5. 各ロケーション・コードの横に示されている選択リストに必要な変更を行います。
6. 1 つ以上の FRU インジケーターの状態に対して行った変更を保存するには、「**設定の保管**」をクリックします。

このエンクロージャーのすべてのインジケーターをオフにするには、「**すべてをオフ**」をクリックします。レポート・ページが表示されて、正常終了したか異常終了したかを示します。

ロケーション・コードごとのインジケーターの変更

任意のインジケーターのロケーション・コードを指定して、その現在の状態を表示または変更することができます。間違ったロケーション・コードが指定された場合、Advanced System Management Interface (ASMI) は、次に高いレベルのロケーション・コードを参照しようと試みます。

このタスクについて

その次のレベルは、現場交換可能ユニット (FRU) に対するベース・レベル・ロケーション・コードです。例えば、システム内の 3 番目のエンクロージャーの 2 番目の入出力スロットにある FRU に対するロケーション・コードを入力します。2 番目の入出力スロットに対するロケーション・コードが正しくない (このロケーションに FRU が存在しない) 場合は、3 番目のエンクロージャーに対するインジケーターを設定しようとする試みが開始されます。この処理は FRU がある限り、または他のレベルが使用できなくなるまで続きます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

インジケーターの現在の状態を変更するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」および「**サービス・インディケーター**」を展開します。
3. 「**ロケーション・コードごとのインジケーター**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、FRU のロケーション・コードを入力して、「**続行**」をクリックします。
5. リストから希望する状態を選択します。
6. 「**設定の保管**」をクリックします。

コントロール・パネルでの LED テストの実行

コントロール・パネル上で LED テストを実行して、LED のうちのどれかが適正に機能していないかどうかを判別することができます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

コントロール・パネル上で LED テストを実行するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」および「**サービス・インディケーター**」を展開します。
3. 「**ランプ・テスト**」を選択します。
4. 「ランプ・テスト」 ペインで、「**続行**」をクリックしてランプ・テストを実行します。ランプ・テストが開始されると、中央電子処理装置 (CEC) 内および拡張装置上のファームウェア制御インジケーターが 4 分間点灯した後、前の状態に戻ります。

電源管理

サーバーの電力消費量の調整、アイドル省電力の設定、およびチューニング・パラメーターの設定によって、プロセッサのパフォーマンスを高める方法を説明します。

サーバーの電力消費量の制御

プロセッサの電圧とクロック周波数を調整してサーバーの電力消費量を制御します。

このタスクについて

省電力モードを使用可能にすると、プロセッサの電圧とクロック周波数を調整して電力消費量を削減できます。省電力モードを使用不可にすると、プロセッサの電圧とクロック周波数はそれぞれのデフォルト値に設定されます。

注: このオプションは、サーバー・ファームウェアがスタンバイ 状態または実行状態である場合にのみ、使用可能にすることができます。

このオプションを選択するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

サーバーの電力消費量を制御するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。

- ナビゲーション領域で、「システム構成」 > 「電源管理」 > 「電源モードのセットアップ (Power Mode Setup)」と展開します。
- コンテンツ・ペインで、以下のオプションのいずれかを選択します。

- **すべてのモードを使用不可にする (Disable all modes):** このオプションを有効にすると、プロセッサのクロック周波数を固定の公称値に設定することができます。
- **静的省電力モードを使用可能にする:** このオプションを有効にすると、プロセッサ・クロック周波数および電圧を固定値まで下げることで電力使用量を削減できます。このオプションは、予測可能なパフォーマンスを実現しながら、システムの電力消費量を削減します。
- **動的パフォーマンス・モードを使用可能にする (Enable Dynamic Performance mode):** このオプションを有効にすると、プロセッサ周波数がワークロードおよびアクティブ・コアのカウントに基づいて変化します。ワークロードまたはアクティブ・コアのカウントが減少するにつれて、プロセッサの使用電力が少なくなり、それにより、周波数が増えて公称値を上回ります。使用率が非常に低い期間中、プロセッサ周波数は下がり、エネルギーの節約になります。このモードでは、すべての環境上の稼働条件全体でパフォーマンスが一貫したものになります。
- **最大パフォーマンス・モードを使用可能にする (Enable Maximum Performance mode):** この機能を有効にすると、プロセッサ周波数がワークロードおよびアクティブ・コアのカウントに基づいて変化します。ワークロードまたはアクティブ・コアのカウントが減少するにつれて、プロセッサの使用電力が少なくなり、それにより、周波数が増えて公称値を上回ります。このモードでは、許されるソケット電力が最大値まで増大し、その結果、パフォーマンスは最大になりますが、ファンのノイズが増え、電力消費量が増えます。ストレスがさらに大きい環境では、パフォーマンスが変化することがあります。

注: いずれかの省電力モードを使用可能にすると、プロセッサの周波数、プロセッサ使用、電力消費量、およびパフォーマンスが変化します。

- 「続行」をクリックします。

アイドル省電力の設定

アイドル電力遅延時間およびアイドル使用量しきい値を設定することにより、アイドル・ステージ中に電力を節約します。

このタスクについて

このオプションを使用可能にすると、開始と終了について、アイドル電力遅延時間およびアイドル使用量しきい値を設定することにより、アイドル時間中の電力消費量を削減できます。アイドル省電力機能を有効にすると、特定のしきい値が合致したときに、システムが使用する電力が少なくなります。

このオプションを選択するには、以下の権限レベルのうちのいずれか1つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

アイドル省電力を設定するには、以下の手順を実行します。

手順

- 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。
- ナビゲーション領域で、「システム構成」 > 「電源管理」 > 「アイドル省電力 (Idle Power Saver)」と展開します。
- 右側のペインで、「アイドル省電力 (Idle Power Saver)」に対して「使用可能」または「使用不可」を選択します。
- アイドル電力に入る遅延時間 (Delay Time to Enter Idle Power)** フィールドに、システムがアイドル省電力モードに入る前に遅延する秒数を入力します。
- 「アイドル電力に入るための使用率しきい値 (Utilization Threshold to Enter Idle Power)」** フィールドに、システムがアイドル省電力モードに入る前に到達する使用しきい値のパーセンテージを入力します。

6. 「アイドル電力を終了する遅延時間 (Delay Time to Exit Idle Power)」フィールドに、システムがアイドル省電力モードを終了する前に遅延する秒数を入力します。
7. 「アイドル電力を終了するための使用率しきい値 (Utilization Threshold to Exit Idle Power)」フィールドに、システムがアイドル省電力モードを終了する前に到達する使用しきい値のパーセンテージを入力します。
8. 「設定の保管」をクリックします。

注：アイドル電力に入る使用量しきい値として、アイドル電力を終了する使用量しきい値よりも大きい値を選択した場合の動作は予測不能です。

チューニング・パラメーターの設定

電力性能を高めるためのチューニング・パラメーターの使用法を説明します。

このタスクについて

このオプションを選択するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

チューナブル・パラメーターを使用して、動的な省電力機能を有効にしたまま、システム動作を変更することができます。これは、必要とされる性能と、望ましいエネルギー節約との適切なバランスを取る上で有用です。IBM 担当員と直接共同で作業を行っている場合を除き、あるいはこれらのパラメーターの変更の効果に適したレベルの専門知識がある場合を除き、これらのパラメーターを変更してはなりません。

証明書管理

自己署名証明書を生成するか、または選択した認証局 (CA) による署名付きの信頼証明書をアップロードすると、信頼できるアクセスを確実なものとすることができます。証明書を管理するには、この手順のステップを使用します。

このタスクについて

以下のいずれかの方法により、単一のシステムまたは複数のシステムの証明書を管理することができます。

- 個々のシステムについて、Advanced System Management Interface (ASMI) を使用する。
- ハードウェア管理コンソール (HMC) ベースのインターフェースを使用して、複数のシステム上での証明書管理について単一パスを使用可能にする。

この操作を完了するためには、以下の権限レベルのいずれかを持っている必要があります。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

証明書を管理するには、次の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム構成」を展開します。
3. 「セキュリティ」 > 「証明書管理」をクリックします。
4. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - 新しい鍵と自己署名証明書の生成
 - 新しい鍵と証明書署名要求 (CSR) の生成
 - 証明書署名要求 (CSR) のエクスポート
 - 署名証明書のインポート
 - 署名付き証明書のエクスポート
5. 「続行」をクリックし、指示に従って、証明書を処理します。

外部サービスの管理

ASMI を使用して、任意の時点で、不要なアプリケーションを選択的に使用不可にすることができます。

このタスクについて

使用可能にしたり使用不可にしたりできるのは、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) サービス、Common Information Model (CIM) サービス、および Service Location Protocol (SLP) サービスです。この操作を実行するためには、管理者でなければなりません。

サービスを使用可能または使用不可にするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**セキュリティ**」 > 「**外部サービス管理**」をクリックします。
4. 以下のサービスのそれぞれについて、要件に応じて「**使用可能**」または「**使用不可**」を選択します。
 - IPMI
 - CIM
 - SLP
 - RTAD
5. 「**設定の保管**」をクリックして、変更内容を保管します。

TPM 必須ポリシー

トラステッド・プラットフォーム・モジュール (TPM) 必須ポリシー (TPM Required Policy) は、ノード (またはシステムに単一ノードがある場合はシステム) が機能 TPM なしでブートできるようになっているかどうかを判別します。

このタスクについて

TPM 必須ポリシーを変更するには、以下の手順を実行します。

注: TPM 必須ポリシーを使用可能にした場合、以下の条件が両方とも真であると、ノード (アクティブなノードが 1 つだけの場合はシステム) は終了します。

- ブート時に使用可能な機能 TPM はない。
- システムがセキュア・モードである (プレーナー・ジャンパー設定のため)。

この条件のどちらかが真でない場合、ブート操作は続行します。TPM 必須ポリシーを使用不可に設定した場合、機能 TPM がなければ、ノードまたはシステムの終了は停止されます。このポリシーにより、使用可能な TPM が使用されなくなることはありません。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
3. 「**セキュリティ**」 > 「**TPM 必須ポリシー (TPM Required Policy)**」をクリックします。
4. 要件に応じて「**使用可能**」または「**使用不可**」を選択します。
5. 「**設定の保管**」をクリックして、変更内容を保管します。

パフォーマンス・オプションの設定

論理メモリー・ブロック・サイズを変更し、キャッシュ・ロック・モードを使用可能にすると、管理対象システムのパフォーマンスが向上する場合があります。論理メモリー・ブロック・サイズを変更し、シス

テム・メモリー・ページ・サイズを大きくすると、管理対象システムのパフォーマンスが向上する場合があります。

この情報は、お客様の管理対象システムのパフォーマンスを向上させる方法について説明しています。

論理メモリー・ブロック・サイズの変更

論理メモリー・ブロック・サイズを手動で、または自動的に変更すると、管理対象システムのパフォーマンスを向上できる場合があります。

このタスクについて

システム・カーネルはメモリー・ブロック・サイズを使用してファイルの読み取りおよび書き込みを行います。デフォルトでは、論理メモリー・ブロック・サイズは「自動」に設定されています。この設定により、システムは使用可能な物理メモリーに基づいて論理メモリーのブロック・サイズを設定できます。論理メモリー・ブロック・サイズは手動で変更することもできます。

お客様のシステム用に適切な論理ブロック・サイズを選択するには、必要なパフォーマンスと物理メモリー・サイズの両方を考慮してください。論理ブロック・サイズを選択する時は、以下のガイドラインに従ってください。

- 取り付けられているメモリーの量が少ない (2 GB 以下) システムでは、大きい論理メモリー・ブロック・サイズを選択すると、ファームウェアが過度のメモリーを消費することになります。ファームウェアは少なくとも 1 つの論理メモリー・ブロックを使用する必要があります。一般に、論理メモリー・ブロック・サイズを選択する場合、システムの物理メモリー・サイズの 1/8 を超えないようにしてください。
- 取り付けられているメモリーの量が大きいシステムの場合、小さな論理メモリー・ブロック・サイズを選択すると、論理メモリー・ブロックの数が多くなります。論理メモリー・ブロックはブート時に 1 つずつ管理される必要があるため、論理メモリー・ブロックの数が多いとパフォーマンス上の問題の原因になることがあります。一般的に、論理メモリー・ブロックの数は 8 K 以下に制限してください。

注: 論理メモリー・ブロック・サイズは実行時に変更できますが、その変更はシステムを再始動するまで有効にはなりません。

論理メモリー・ブロック・サイズを変更するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

手順

論理メモリーのブロック・サイズを構成するには、次の手順を完了します。

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**パフォーマンスのセットアップ**」を展開します。
3. 「**論理メモリー・ブロック・サイズ**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで論理メモリー・ブロック・サイズを選択して、「**設定の保管**」をクリックします。

システム・メモリー・ページ・サイズの拡大

メモリー・ページを拡大したシステムを設定することによって、システムのパフォーマンスを向上させることができます。

このタスクについて

パフォーマンスの向上は、お客様のシステムで実行中のアプリケーションによって変動します。この設定は、サービスおよびサポートの指示がある場合のみ変更してください。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

より大きいメモリー・ページでシステムをセットアップするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「パフォーマンスのセットアップ」を展開します。
3. 「システム・メモリー・ページのセットアップ」を選択します。
4. 右側のペインで、必要な設定を選択します。
5. 「設定の保管」をクリックします。

ネットワーク・サービスの構成

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、ネットワーク・インターフェースの構成、ネットワーク・アクセスの構成、および仮想 TTY 端末のデバッグを行います。

ネットワーク・インターフェースの構成

システム上でネットワーク・インターフェースを構成できます。インターフェースの数とタイプは、システムの特定の要件に応じて異なります。

このタスクについて



重要: この操作は、システムの電源オン時でも電源オフ時でも実行できます。ネットワーク構成の変更は即時に有効になるため、HMC 接続など、既存のネットワーク・セッションは停止します。ファームウェア更新が進行中の場合は、この操作を行わないでください。新しい設定を使用して、すべてのネットワーク接続を再確立する必要があります。システムの電源がオンの場合、追加のエラーがログに記録されることもあります。

システムがどのような状態のときでも、ネットワーク構成を変更することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

ネットワーク・インターフェースを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「ネットワーク・サービス」を展開します。
3. 「ネットワーク構成」をクリックします。

重要: 複数ドロワー・システムでネットワーク接続を構成する場合、1 次または 2 次のサービス・プロセッサを選択して「**続行**」をクリックする必要があります。

4. 以下のネットワーク構成のいずれかを指定して、「**続行**」をクリックします。

- 「**インターフェース 構成**」セクションで、以下の構成のいずれかをクリックします。
 - **IPv4**
 - **IPv6**
- 「**静的経路構成**」で、「**IPv4**」をクリックします。

注: この設定は、兄弟サービス・プロセッサに対しては使用できません。例えば、ユーザーが 1 次サービス・プロセッサにログインしている場合、この設定を 2 次サービス・プロセッサに対して使用することはできません。

5. 指定したネットワーキング構成に応じて、以下のいずれかのステップにスキップします。
 - 「**インターフェース 構成**」で「**IPv4**」を選択してある場合は、次のステップに進みます。
 - 「**インターフェース 構成**」で「**IPv6**」を選択してある場合は、次のステップ 7 に進みます。
 - 「**静的経路構成**」で「**IPv4**」を選択してある場合は、[ステップ 12](#) にスキップします。

6. 「このインターフェースを構成する (Configure this interface)」を選択して、必要なインターフェースの構成詳細を指定します。eth0 ネットワーク・インターフェースおよび eth1 ネットワーク・インターフェースの詳細を指定できます。

- a) 「IPv4」リストから、「使用可能」を選択します。
- b) 「IP アドレスのタイプ」リストから、以下のオプションのいずれかを選択します。

静的

このオプションを選択した場合は、ホスト名、IP アドレス、サブネット・マスク、ブロードキャスト・アドレス、およびデフォルトのゲートウェイを指定する必要があります。

動的

追加入力は不要です。

7. 「このインターフェースを構成する (Configure this interface)」を選択して、必要なインターフェースの構成詳細を指定します。eth0 ネットワーク・インターフェースおよび eth1 ネットワーク・インターフェースの詳細を指定できます。

- a) 「IPv6」リストから、「使用可能」を選択します。
- b) 「DHCP」リストから、「使用可能」を選択します。
- c) 「自動構成 IP アドレス」リストから、「使用可能」を選択します。
- d) 「ホスト名」フィールドで、ホスト名を指定します。

8. IP アドレスの構成詳細を提供します。

9. 以下の詳細を提供して、[ステップ 12](#) にスキップします。

- ドメイン名
- 最初の DNS サーバーの IP アドレス
- 2 番目の DNS サーバーの IP アドレス
- 3 番目の DNS サーバーの IP アドレス

10. 構成したいネットワーク・インターフェースを選択します。eth0 または eth1 を選択できます。

11. ネットワーク・インターフェースの「IP アドレス」、「サブネット・マスク」、および「ゲートウェイ・アドレス」を指定します。

12. 「続行」をクリックして、指定した IP 設定を確認します。



重要: 正しくないネットワーク構成情報を入力した場合、変更後に ASMI を使用できなくなることがあります。この状態を修復するには、サービス・プロセッサ・アセンブリをサーバーから取り外し、リセット・ジャンパーを移動して、サービス・プロセッサをデフォルト設定にリセットする必要があります。サービス・プロセッサをリセットすると、ユーザー ID とパスワードもすべてデフォルト値にリセットされます。

注: ネットワーク構成の設定を工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、「ネットワーク構成のリセット」をクリックします。

13. 「設定の保管」をクリックして、変更を行います。

ネットワーク・アクセスの構成

サーバーにアクセスできる IP アドレスを指定します。

このタスクについて

ネットワーク・アクセスを構成するとき、どの IP アドレスがサービス・プロセッサにアクセスできるかを指定します。アクセスを許可された IP アドレスのリスト、およびアクセスが拒否される IP アドレスのリストを指定することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ネットワーク・アクセスを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**ネットワーク・サービス**」を展開します。
3. 「**ネットワーク・アクセス**」を選択します。コンテンツ・ペインで、「**IP アドレス**」フィールドに、ご使用のブラウザが ASMI に接続して動作中のサーバーの IP アドレスが表示されます。

注：システム・ファームウェア Ex340 以降が実行されているシステムでは、ネットワーク構成画面に進む前に IPv4 または IPv6 の選択を行うよう求められます。IPv6 を選択した場合も、全体として以下の指示に従うことができます。

4. 許可されるアドレスおよび拒否されるアドレスのリストごとに最大 16 個のアドレスを指定します。
ALL は有効 IP アドレスです。

ログインを、許可リスト内の完全な IP アドレスまたは部分的な IP アドレスに一致する IP アドレスから受信した場合は、サービス・プロセッサへのアクセスが許可されます。ログインを、拒否リスト内の完全な IP アドレスまたは部分的な IP アドレスに一致する IP アドレスから受信した場合は、サービス・プロセッサへのアクセスは許可されません。

注：許可リストの方が拒否リストより優先度があります。そして、空の拒否リストは無視されます。許可リストが空の場合は、拒否リストに ALL を指定することはできません。

5. 「**設定の保管**」をクリックして、データの検証を行います。

拡張サービスの使用

リモート・システムの IP アドレスおよびディレクトリー・パスを指定します。

このタスクについて

ASMI では、Telnet、FTP、および rsh などのユーティリティーを使用可能にするために、サービス・プロセッサの固定マウント・ポイントにディレクトリーをマウントすることができます。現行のマウント設定をクリアすることもできます。ディレクトリーをマウントするには、リモート・システムの IP アドレスおよびリモート・システム上のディレクトリーへのパスを提供する必要があります。ターゲット・ディレクトリーはホスト・サービス・プロセッサ上の固定位置にマウントされます。デフォルトでは、マウント・ポイントは /nfs です。

このオプションは、障害を起こしているシステムから追加のデバッグ情報を収集するのに役立ちます。Telnet などのユーティリティーを使用可能にするには、リモート・システムの IP アドレスおよびリモート・システム上でディレクトリーをマウントするパスに加えてリモート・システム上のシェル・スクリプトへの相対パス名を提供する必要があります。このシェル・スクリプトが、ホスト・サービス・プロセッサ上で実行されると、Telnet や FTP などのユーティリティーが使用可能になります。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 認定サービス・プロバイダー

拡張サービスを構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**拡張サービス**」を展開します。
3. コンテンツ・ペインで、リモート・マシンの IP アドレス、リモート・マシン上でマウントするディレクトリーのパス、およびリモート・マシン上で実行したいシェル・スクリプトの相対パス名を指定します。「シェル・スクリプト」フィールドの相対パスはオプションです。
4. 「**設定の保管**」をクリックして、入力したデータを使用してリモート・ディレクトリーをマウントします。あるいは、「**マウントのクリア**」をクリックして、以前マウントしたリモート・ディレクトリーをアンマウントします。

仮想 TTY 端末のデバッグ

マスター・サービス・プロセッサから仮想テレタイプ (TTY) をデバッグします。

このタスクについて

DVS (debug virtual server) を使用して、障害を起こしているシステムから追加のデバッグ情報を収集することができます。DVS はサーバー・ファームウェアおよび区画ファームウェアとの通信を使用可能にします。DVS では最大 8 個の接続を開くことが可能です。ASMI やサービス・プロセッサのリモート・アプリケーションなどの外部インターフェースは、DVS を経由して、サーバー・ファームウェアおよび区画ファームウェアと通信することが可能です。この通信は双方向通信です。外部インターフェースは、DVS を経由して、サーバー・ファームウェアおよび区画ファームウェアにメッセージを送信することができます。

DVS は、区画 ID とセッション ID を使用してサーバー・ファームウェアと区画ファームウェアを区別します。区画 ID およびセッション ID の範囲は両方とも 0 から 255 です。ASMI などのクライアントは、TCP/IP ソケットを使用して DVS と通信します。サービス・プロセッサ上のポート 30002 をこの通信で使

用します。区画 ID とセッション ID のパラメーターを、通信を開始する際に指定する必要があります。両方のパラメーターを指定した後で、メッセージを送信するために Telnet セッションを開始する必要があります。15 分のタイムアウト時間内に、Telnet セッションを開始してメッセージを送信する必要があります。両方のアクションがこのタイムアウト時間内に行われない場合は、接続はクローズされます。

この操作を実行するには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

仮想 TTY 端末をデバッグするには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**ネットワーク・サービス**」を展開します。
3. 「**仮想 TTY 端末のデバッグ**」を選択します。
4. コンテンツ・ペインで、区画 ID とセッション ID を入力します。
5. 「**設定の保管**」をクリックします。

オンデマンド・ユーティリティーの使用

サーバーの再始動や業務の中断を行うことなく、非アクティブなプロセッサまたはシステム・メモリーを活動化します。

Capacity on Demand (CoD) を使用すると、非アクティブなプロセッサまたは非アクティブなシステム・メモリーを永続的に活動化することができます。ご使用のサーバーを再始動したり、業務を中断したりする必要はありません。CoD リソースの情報を表示することもできます。

重要: この情報は、ハードウェア障害によりシステムで Capacity On Demand または Function On Demand の購入した機能が失われた場合、またシステムを管理する HMC がない場合に使用します。HMC がシステムを管理している場合は、ASMI ではなく、HMC を使用して次のタスクを完了します。

Capacity on Demand の注文

プロセッサまたはメモリーの活動化フィーチャーを注文する際に必要なシステム情報を生成します。

このタスクについて

非アクティブなプロセッサまたはメモリーの一部またはすべてを永続的に活動化するには、1 つ以上のプロセッサまたはメモリー活動化フィーチャーを注文する必要があります。その後、ハードウェアの提供者から入手したプロセッサまたはメモリーの活動化キーを入力して、非アクティブなプロセッサまたはメモリーを活動化します。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

プロセッサまたはメモリーの活動化フィーチャーを注文するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**On Demand ユーティリティ (On Demand Utilities)**」を展開します。
3. 「**CoD 注文情報 (CoD Order Information)**」を選択します。
サーバー・ファームウェアに、Capacity on Demand の活動化フィーチャーを注文するために必要な情報が表示されます。
4. 表示される情報を記録します。

ASMI を使用した Capacity on Demand または PowerVM の活動化

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して Capacity on Demand プロセッサまたはメモリーを活動化したり、PowerVM[®] フィーチャー (以前は Advanced POWER[®] Virtualization と呼ばれていた) を使用可能にしたりすることができます。

始める前に

プロセッサまたはメモリーの活動化フィーチャーを入手する際、非アクティブなプロセッサまたはメモリーを活動化するために使用する活動化キーを受け取ります。

このタスクについて

PowerVM フィーチャーが使用可能にされていない状態でシステムが納品された場合は、ASMI を使用して、このフィーチャーを注文したときに受け取った活動化コードを入力する必要があります。この活動化コードを使用すると、システムで Micro-Partitioning[®] フィーチャーも使用可能になります。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

非アクティブなプロセッサまたはメモリーの一部またはすべてを永続的に活動化するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**On Demand ユーティリティ (On Demand Utilities)**」を展開します。
3. 「**CoD 活動化 (CoD Activation)**」を選択します。
4. 活動化キーをフィールドに入力します。
5. 「**続行**」をクリックします。PowerVM フィーチャーのコードを入力した場合は、フィーチャーが使用可能になります。Capacity on Demand のコードを入力した場合は、CoD 活動化後のサーバー・ファームウェアの再開の手順に進みます。

CoD 活動化後のサーバー・ファームウェアの再開

Capacity on Demand (CoD) 活動化キーを入力した後、サーバー・ファームウェアのブート・プロセスを再開します。

このタスクについて

CoD 活動化キーを入力したら、サーバー・ファームウェアを再開できます。サーバー・ファームウェアを再開すると、CoD キーが認識され、ハードウェアが活動化されます。起動プロセスでは、サーバーを CoD 活動化キーの入力に必要な *On Demand* リカバリー 状態にするために最大 1 時間の遅延が生じますが、このオプションにより、サーバーがこの遅延中のプロセスを完了できるようになります。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

サーバー・ファームウェアを再開するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**On Demand ユーティリティー (On Demand Utilities)**」を展開します。
3. 「**CoD リカバリー (CoD Recovery)**」を選択します。
4. 「**続行**」をクリックして、指定の操作を実行します。

Capacity on Demand コマンドの使用

サービスおよびサポートで指示されたとおり、サーバー・ファームウェアに送られる Capacity On Demand 関連コマンドを実行することができます。

このタスクについて

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

Capacity On Demand コマンドを実行するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**On Demand ユーティリティー (On Demand Utilities)**」を展開します。
3. 「**CoD コマンド**」を選択します。
4. Capacity On Demand コマンドをフィールドに入力し、「**続行**」をクリックします。
サーバー・ファームウェアからのコマンドへの応答が表示されます。

CoD リソースに関する情報の表示

Capacity on Demand (CoD) がシステムで活動化されると、CoD プロセッサ、CoD メモリーとして割り当てられたメモリー、および Virtualization Engine テクノロジー・リソースに関する情報を表示することができます。

このタスクについて

CoD リソース情報を表示するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

CoD リソースの情報を表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**On Demand ユーティリティー (On Demand Utilities)**」を展開します。
3. 表示したい情報のタイプに対して、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **CoD プロセッサ情報 (CoD Processor Information)** は CoD プロセッサの情報を表示します
 - **CoD メモリー情報 (CoD Memory Information)** は使用可能な CoD メモリーの情報を表示します

- **CoD Vet 機能設定 (CoD Vet Capability Settings)** は、Virtualization Engine テクノロジーで使用可能な CoD 機能の情報を表示します

次のタスク

注：CoD 機能設定は、ハードウェア管理コンソール (HMC) から也表示できます。

ASMI サービス援助機能メニューの表示

Advanced System Management Interface (ASMI) のさまざまなサービス援助機能 (エラー・ログの表示、サービス・プロセッサ・ダンプの開始など) を使用して、トラブルシューティング情報の表示およびカスタマイズを行います。

このトピックでは、以下の ASMI サービス援助機能の使用法について説明します。

注：ハードウェア管理コンソール (HMC) をサーバーに接続すると、各システム・ポート (system port) が使用不可になり、サーバーはサービス・プロセッサのスタンバイ状態を超えてブートされます。

エラー・ログおよびイベント・ログの表示

サービス・プロセッサでのすべてのエラー・ログおよびイベント・ログのリストを表示します。

このタスクについて

さまざまなサービス・プロセッサ・ファームウェア・コンポーネントが生成したエラー・ログおよびイベント・ログを表示することができます。これらのログのコンテンツは、ハードウェアの問題またはサーバー・ファームウェアの問題を解決するのに役立ちます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

情報、エラー、および各種のログはすべての権限レベルで表示することができます。IBM 認定サービス・プロバイダーは、非表示のエラー・ログも表示することができます。

以下の表は、表示される可能性があるエラー・ログ・タイプを示します。「条件」はあるエラー・ログをそのエラー・ログ・タイプ特有にするものであり、「ユーザー権限レベル」は特定のタイプのエラー・ログの表示を許可します。

表 10: エラー・ログ・タイプ			
エラー・ログ・タイプ	条件		ユーザー可用性
	重大度	処置	
通知ログ	通知	オペレーティング・システム (OS) へのレポート、しかし非表示ではない	すべてのユーザーが使用可能
エラー・ログ	通知以外	OS へのレポート、しかし非表示ではない	すべてのユーザーが使用可能
非表示ログ	通知以外および通知	OS へのレポート、非表示、または両方	IBM 認定サービス・プロバイダーおよびより高い権限のあるユーザーだけが使用可能
その他	通知	OS への報告なし	すべてのユーザーが使用可能

エラー・ログおよびイベント・ログを要約フォーマットまたは完全詳細フォーマットで表示または消去するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開して、「**エラー/イベント・ログ**」をクリックします。
ログ・エントリーが存在する場合は、要約ビューにエラーおよびイベント・ログ・エントリーのリストが表示されます。
3. リストされた任意のログの完全詳細フォーマットを表示するには、そのログに対応するチェック・ボックスを選択して、「**詳細の表示**」をクリックします。
複数のログを選択すると、すべてのアクションが選択したすべてのログに対して適用されます。完全詳細フォーマットは数ページにわたることがあります。完全詳細フォーマット出力のコンテンツとレイアウトは、イベントまたはエラー・ロギング・コンポーネントによって定義されています。
4. 「**レポート済みマーク**」をクリックして、問題を引き起こした原因が解決されたプラットフォーム・エラー・エントリーにマークを付けます。
こうしておけば、システムがリブートしたとき、これらのエントリーが再びオペレーティング・システムにレポートされることがなくなります。いったんマークを付けておくと、これらのエラーはサービス・プロセッサ・ヒストリー・ログに記録される他のエラーで上書きされます。
注: 「**レポート済みマーク**」ボタンは、権限レベルが IBM 認定サービス・プロバイダーのときのみ使用可能です。
5. 「**エラー/イベント・ログ・リポジトリ情報の表示 (Show error/event log repository information)**」ボタンをクリックして、管理対象システムのエラー・ログ・リポジトリまたはイベント・ログ・リポジトリの情報を表示します。エラーがログに記録されるときに、エラー/イベント・ログ・リポジトリが満杯になる場合があります。エラーをとくとき確認しないと、新しいエラーがログに記録されない可能性があります。このオプションは、次のパラメーターの情報を表示します。
 - エラー/イベント・ログ・リポジトリ
 - サービス・プロセッサ
 - ハイパーバイザー
 - 最終ログの詳細
 - その他の重要な情報
6. エラー/イベント・ログ・エントリーのいずれかを消去するには、削除したい適切なエントリーを選択して、「**選択したエラー/イベント・ログ・エントリーの消去 (Clear selected error/event log entries)**」をクリックします。

シリアル・ポート・スヌープの使用可能化

パラメーター (スヌープ・ストリングも含む) を指定して、シリアル・ポート (システム・ポート (system port)) のスヌープを使用可能にします。

このタスクについて

スヌープ操作は、システム・ポート (system port) 上で使用不可または使用可能にできます。使用可能にした場合、選択したポートで受信したデータは、データが到着したとき検査されるかまたはスヌープされます。スヌープ・ストリングを指定することもできます。指定すると、特定のバイト順序で、あるスヌープ・ストリングが検出された場合、サービス・プロセッサはリセットされます。システム・ポート (system port) S1 がキャッチ・オール・リセット・デバイスとして動作します。

注: 各システム・ポート (system port) は、ハードウェア管理コンソール (HMC) をサーバーに接続すると使用不可になり、サーバーは、サービス・プロセッサのスタンバイ状態を超えてブートされます。

この操作を完了するためには、以下の権限レベルのいずれかを持っている必要があります。

- 一般
- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

現行のシリアル・ポート・スヌープ設定値を表示および変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開して、「**シリアル・ポート・スヌープ**」を選択します。
3. システム・ポート (system port) S1 上でスヌープを使用不可または使用可能に設定します。
デフォルトは「使用不可」です。
4. 使用したいスヌープ・ストリング (最大長は 32 バイト) を「**スヌープ・ストリング**」フィールドに入力します。
表示される現行の値がそのデフォルトです。スヌープ・ストリングは一般的に使用される文字列ではないことを確認してください。英大/小文字混合文字列を推奨します。
5. 「**スヌープ・パラメーターの更新**」をクリックして、選択した値でサービス・プロセッサを更新します。

注: スヌープ操作が正しく構成された後は、システムがブートされた後の任意の時点で、システムは、システム・ポート (system port) S1 に接続された ASCII 端末からリセット文字列が入力されるとすぐに、サービス・プロセッサのリブート・ポリシーを使用して再始動します。

ASMI を使用したシステム・ダンプの実行

システム・ダンプを実行する頻度、およびハードウェアとサーバー・ファームウェアから収集するデータ量を制御します。

このタスクについて

全般的なシステム情報、システム・プロセッサ状態、ハードウェアのスキャン・リング、キャッシュ、およびその他の情報を表示するために、システム・ダンプを開始することができます。この情報は、ハードウェアまたはサーバー・ファームウェアの問題を解決するのに使用することができます。「システム・ダンプ」は、チェック停止やハングなどのシステム誤動作の後でも自動的に開始することができます。プラットフォーム・ダンプは通常、34 MB です。

注: この手順は、サービス・プロバイダーの指示の下でのみ使用してください。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

システム・ダンプを構成して開始するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 可能であれば、オペレーティング・システムの制御されたシャットダウンを実行します。
2. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
3. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開して、「**システム・ダンプ**」をクリックします。
4. ラベル名が「**ダンプ・ポリシー**」の選択リストから、いつ自動システム・ダンプを収集するかを決定するためのポリシーを選択します。

システム・エラー条件がシステムによって自動的に検出されるといつでも、ダンプ・ポリシーが使用されます。ダンプ・ポリシーに加えて、プラットフォーム・ファームウェアは、発生したエラーのタイプに基づいてダンプが推奨されているかどうかを判別します。この推奨とダンプ・ポリシーを組み合わせ、システム・ダンプを開始するかどうかを決定します。

ダンプ・ポリシーには、次のオプションが含まれます。

必要に応じて

特定の理由に対してのみダンプ・データを収集します。これがダンプ・ポリシーのデフォルトの設定値です。

常時

システム・ロックの後またはチェック停止の後にダンプ・データを収集します。この設定はファームウェアの推奨を無効にし、たとえシステム・ダンプが推奨されていないときにも、強制的にシステム・ダンプを実行します。

注: ダンプ・ポリシーでは、いつシステム・ダンプを実行するかを定義するだけです。ダンプ・ポリシーでは、何をダンプするかもダンプする情報のサイズも定義しません。これらのパラメーターは、「ハードウェア・コンテンツ」の設定値で制御されます。

- ラベル名が「ハードウェア・コンテンツ」の選択リストからポリシーを選択して、ダンプするデータの量を決定します。

システム・ファームウェアは、発生したエラーのタイプに基づいてダンプ・コンテンツを推奨します。この推奨とハードウェア・コンテンツを組み合わせ、どの程度の量のダンプ・データを実際に収集するかを決定します。

ダンプ・ポリシーには、次のオプションがあります。

- **自動:** ダンプ・データを自動的に収集します。ファームウェアが、障害のタイプに応じて、どのダンプ・コンテンツが最適かを決定します。これがハードウェア・コンテンツのデフォルトの設定値です。
- **最小:** 最小限の量のダンプ・データを収集します。ハードウェア・ダンプ・データの収集には時間がかかることがあるので、これを選択するとシステム・ダンプのハードウェア部分の内容を最小にすることができます。また、システムをできる限り速くリブートすることが可能になります。

注: このオプションを選択した場合は、一部のエラーに対して収集されたデバッグ・データは十分でないことがあります。一部のエラーに対する関連エラー・データの収集が、システムのダウン時間を短くするために犠牲にされることがあります。

- **中程度:** 適度な量のハードウェア・エラー・データを収集します。この設定値では「最小」の設定値よりも多くのデータが収集されます。そして、「最大」の設定値に比べてダンプ・データの収集に必要な時間は短くなります。
- **最大:** 最大量のハードウェア・エラー・データを収集します。この設定値では最も完全にエラー対象の情報を収集できますが、他のポリシーに対してシステム・ダウン時間がより長く必要になります。これは IBM 認定サービス・プロバイダーによってまれにしか使用されないと思われます。使用されるのは、最初のエラーでエラー収集のためにリブート速度を犠牲にしてもよい場合、または、難しい問題を分析している場合などです。

注: このオプションを選択した場合は、ハードウェア・ダンプ・データの収集には時間がかかることがあります。特に、プロセッサの数が多きシステムでは時間がかかります。

- 「サーバー・ファームウェアのコンテンツ」フィールドで、システム・ダンプのサーバー・ファームウェア部分のダンプ・データの量を示すコンテンツ・レベルを選択します。
- 「設定の保管」をクリックして、設定の変更を保存します。

設定の変更を保存して、現在の設定で即座にダンプを処理するようにシステムに指示するために、「設定の保管およびダンプの開始」をクリックします。

次のタスク

ダンプのコピー、レポート作成、および削除に関する情報については、[ダンプの管理](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9eh6/p9eh6_managedumps_sys.htm)(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9eh6/p9eh6_managedumps_sys.htm) を参照してください。

ASMI を使用したサービス・プロセッサ・ダンプの開始

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、サービス・プロセッサ・ダンプを開始することができます。

このタスクについて

ハードウェア・サービス・プロバイダーの指示のもとでのみこの手順を使用してください。この機能を使用すると、サービス・プロセッサ・アプリケーション障害、外部リセット、あるいはユーザーのサービ

ス・プロセッサ・ダンプ要求の後で、エラー・データを保持しておくことができます。サーバー・ファームウェアもハードウェア管理コンソール (HMC) もどちらも以前の障害データを収集していない場合は、現存するサービス・プロセッサ・ダンプが有効とみなされます。

この操作を実行するには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

サービス・プロセッサ・ダンプを使用可能または使用不可に設定して、既存のサービス・プロセッサ・ダンプの状態を表示するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開して、「**サービス・プロセッサ・ダンプ**」をクリックします。
3. 選択リストから、「**使用可能**」または「**使用不可**」のいずれかを選択します。
デフォルトでは、この状態は「使用可能」です。現在の設定値が表示され、そして存在するサービス・プロセッサ・ダンプの状態が有効または無効として表示されます。

注: この設定が使用不可のときは、ユーザー要求のサービス・プロセッサ・ダンプを実行することはできません。

4. 「**設定の保管**」をクリックして、設定の変更を保管する。

システムにサービス・プロセッサ・ダンプを即時に処理するよう指示するには、「**ダンプの開始**」をクリックします。

区画ダンプの開始

即座に区画ダンプを開始することに加えて、パーティション・ダンプを使用可能または使用不可に設定します。

このタスクについて

重要: この機能は、システムがハードウェア管理コンソール (HMC) によって管理されている場合は使用できません。

ハードウェア・サービス・プロバイダーの指示のもとでのみこの手順を使用してください。区画ダンプを開始することにより、サーバー・ファームウェアまたはオペレーティング・システムの問題を診断するのに使用されるエラー・データを保存することができます。オペレーティング・システムの状態はハード・ディスクに保存され、区画は再始動します。この機能は、オペレーティング・システムが異常な待ち状態またはエンドレス・ループの状態で、区画ダンプの再試行機能が使用不可である場合に使用できます。



重要: この操作の使用時にデータ損失が起こる可能性があります。この機能は、HMC によっては管理されておらず、実行状態のシステム・サーバー・ファームウェアをもっているシステムでのみ使用可能です。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

区画ダンプを実行するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開して、「**パーティション・ダンプ (Partition Dump)**」をクリックします。

IBM i オペレーティング・システムを使用していて、初回の区画ダンプの試行が失敗した場合は、「**パーティション・ダンプの再実行**」を選択してください。

パフォーマンス・ダンプの開始

システムのパフォーマンス・ダンプを開始する方法を説明します。拡張システム管理インターフェース (ASMI) を使用して、システムのパフォーマンス・ダンプを開始することができます。

このタスクについて

システムのパフォーマンス・ダンプとは、システムの障害、システムの外部リセット、または手動による要求後にサービス・プロセッサから収集されたデータの集まりです。システムのパフォーマンス・ダンプを開始すると、ハードウェア・パフォーマンス・データを収集し、ハードウェア・ユニット・ダンプのフォーマットで保管することができます。情報は、システムのパフォーマンス・ダンプが開始された時点で、新しいダンプ・ファイルに保管されます。システムのパフォーマンス・ダンプは、システム電源オン (サービス・プロセッサ実行時) 状態時にのみ、開始できます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

システムのパフォーマンス・ダンプを開始するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム・サービス・エイド (System Service Aids)」 > 「パフォーマンス・ダンプ (Performance Dump)」と展開します。
3. 「ダンプの開始 (Initiate dump)」をクリックして、システムのパフォーマンス・ダンプを開始します。

リソース・ダンプの実行

サービス・プロセッサのリソース・ダンプを実行します。

このタスクについて

すべての論理区画が実行されている間に主ストレージに保管されるハイパーバイザー・データをダンプできます。システムが手動操作モードで、この機能がオペレーティング・システムによって活動化された場合、リソース・ダンプ・オプションが使用可能です。

注：システムが終了状態のとき、ハイパーバイザーがブート中のとき、または別のプラットフォーム・ダンプが進行中のときは、リソース・ダンプ・オプションは使用できません。

この情報を表示するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

リソース・ダンプを実行するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム・サービス・エイド」を展開して、「リソース・ダンプ (Resource Dump)」をクリックします。

システム・ポート (system port) をコール・オプション用に構成する

コール・ホームおよびコール・イン・オプションで使用するためにシステム・ポート (system port) を構成します。

このタスクについて

コール・ホームおよびコール・イン機能で使用するシステム・ポート (system port) を構成することができます。システム・ポート (system port) のボー・レートを設定することもできます。

注: ハードウェア管理コンソール (HMC) をサーバーに接続すると、各システム・ポート (system port) が使用不可になり、サーバーはサービス・プロセッサのスタンバイ状態を超えてブートされます。したがって、システムが HMC によって管理されている場合、またはシステムにポートがない場合は、これらのメニューはありません。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

システム・ポート (system port) を構成するには、以下の手順を完了します。

手順

1. ナビゲーション領域で、「システム・サービス・エイド」を展開して、「シリアル・ポート・セットアップ」をクリックします。
一回セクションが表示されます。セクションのラベル名は「**S1**」であり、これはコール機能で使用するシステム・ポート (system port) です。
2. 「**S1**」セクションで該当のフィールドを変更します。

ボー・レート

このシステム・ポート (system port) のボー・レートを選択します。端末がこのポートに接続されている場合は、設定値は一致する必要があります。選択可能なスピードは、50、300、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、および 115200 bps です。

キャラクター・サイズ

このシステム・ポート (system port) のキャラクター・サイズを選択します。端末がこのポートに接続されている場合は、設定値は一致する必要があります。

ストップ・ビット

このシステム・ポート (system port) のストップ・ビットの数を選択します。端末がこのポートに接続されている場合は、設定値は一致する必要があります。

パリティ

このシステム・ポート (system port) のパリティを選択します。端末がこのポートに接続されている場合は、設定値は一致する必要があります。

3. 「設定の保管」をクリックして、設定の変更を保管する。

モデムの構成

システム・ポート (system port) に接続されるモデムを構成します。

このタスクについて

注: ハードウェア管理コンソール (HMC) をサーバーに接続すると、各システム・ポート (system port) が使用不可になり、サーバーはサービス・プロセッサのスタンバイ状態を超えてブートされます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

モデムを構成するには、次のようにします。

注: 7852-400 モデムを S1 のシリアル・ポートに接続する場合は、モデム上で次のようなスイッチ位置を使用する必要があります (U=上、D=下): UUDD UUUD UUUD UUUU。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開します。
3. 「**モデム構成**」を選択します。
4. 「**S1**」セクションのフィールドを変更します。
 - **モデム・タイプ**: 選択リストからサポートされているモデム・タイプを選択します。
 - **モデム・リセット・コマンド**: 電源オン時のデフォルトにモデムをリセットするために使用するコマンドを入力します。
 - **モデム初期化コマンド**: このコマンドで、モデムが必要な動作をするように構成します。適切な操作が確実に行われるようにするには、結果コードを戻す必要がある (ATQ0)、エコーは使用不可でなければならない (ATE0)、結果コードはストリングでなければならない (ATV1) を設定します。モデム・タイプが「カスタム」でない場合は、この設定は無視されます。
 - **モデム・ダイヤル・コマンド**: このコマンドは、番号をダイヤルするのに使用します。例えば、トーン・ダイヤリングでは ATDT コマンドを使用します。モデム・タイプが「カスタム」でない場合は、この設定は無視されます。
 - **モデム auto-answer コマンド**: このコマンドは、モデムが着呼に応答できるようにします。例えば、ATS0=1 です。モデム・タイプが「カスタム」でない場合は、この設定は無視されます。
 - **モデム・ページャー・ダイヤル・コマンド**: モデム・ページャー・ダイヤル・コマンドを入力します。このコマンドは、ページャーをダイヤルするのに使用します。例えば、ATDT%s,,,%s;ATH0 がその例です。

注: 両端に %s 文字列が必要です。モデム・タイプが「カスタム」でない場合は、この設定は無視されます。
 - **モデム切断コマンド**: モデム切断コマンドを入力します。このコマンドは、電話接続を切断するのに使用します。例えば、+++ATH0 がその例です。モデム・タイプが「カスタム」でない場合は、この設定は無視されます。
5. 「**設定の保管**」をクリックして、モデム構成の変更を保存します。

コール・ホーム・ポリシーの構成

この手順を使用して、コール・ホームを行う (すなわち、次のレベルのサポートに連絡する) よう、システムを構成します。

このタスクについて

以下のトピックで、コール・ホームとは、IBM サービス・センターのコンピューターに連絡することを指します。

注:

- コール・ホーム機能は、サービス・プロセッサ (FSP) の状態が、「FSP スタンバイ」、「FSP 終了」、または「POWER Hypervisor が起動していないときは IPL 中」のいずれかである場合にのみサポートされます。
- 「コール・ホーム」オプションは、ハードウェア管理コンソール (HMC) によって管理されるシステムや、BMC サービス・プロセッサが備わった Power Systems サーバーの LC Line サーバー上では使用できません。

この操作を完了するためには、以下の権限レベルのいずれかを持っている必要があります。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

コール・ホーム・ポリシーを構成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開します。
3. 「**コール・ホーム・セットアップ**」を選択します。
4. 指定されたフィールドに詳細を指定します。

• コール・ホーム・ポリシー

使用不可

コール・ホーム機能を使用不可にするには、「**使用不可**」をクリックします。

IBM CC

コール・ホーム要求を IBM サービス・センターに転送するには、「**IBM CC**」をクリックします。

注：ご使用のシステムがファイアウォールの背後にある場合は、以下のコール・ホーム機能用の IBM サーバーがサービス・センターに接続できることを確認してください。

- esupport.ibm.com
- eccgw01.boulder.ibm.com
- eccgw02.rochester.ibm.com
- www-945.ibm.com
- www.ecurep.ibm.com

OEM CC

コール・ホーム要求をお客様指定のカスタマー・ケア IP アドレスおよびポート番号に転送するには、「**OEM CC**」をクリックします。

注：指定された IP アドレスを持つシステムがファイアウォールの背後にある場合は、必ず、許されるアドレスのリストにその IP アドレスを追加してください。

レガシー CC

このオプションは、認定サービス・プロバイダーの場合にのみ使用可能です。認定サービス・プロバイダーがコール・ホーム・ポリシーを「**レガシー CC**」に設定した場合、管理者は、詳細を見ることができますが、変更することはできません。このオプションにより、コール・ホーム・ポリシーは、以前にセットアップされた構成を使用することができます。

• 電話番号

サービス・センターの電話番号

これは、サービス・センターのコンピューターに接続された電話番号です。サービス・センターは通常、コールアウト機能をもったサーバーからの呼び出しを受け付けるコンピューターを備えています。このコンピューターは、**キャッチャー**と呼ばれます。**キャッチャー**は、サービス・プロセッサが準拠する特定フォーマットのメッセージを必要とします。フォーマットおよび**キャッチャー・コンピューター**の詳細については、AIX `/usr/samples/syscatch` ディレクトリー内にある README ファイルを参照してください。入力するサービス・センターの正しい電話番号については、IBM 認定サービス・プロバイダーにお問い合わせください。番号を入手するまで、このフィールドには何も入力しないでください。

カスタマー管理センターの電話番号

これは、サーバーからの問題コールを受信するシステム管理センターのコンピューター（**キャッチャー**）の電話番号です。ここで入力する正しい電話番号については、お客様のシステム管理者にお問い合わせください。その番号を入手するまで、このフィールドは未割り当てのままにしてください。

デジタル・ペーজャーの電話番号

これは、サーバーからの問題コールに応答する担当者が携帯している数字ペーজャーの番号です。入力する正しい電話番号については、お客様の管理センター担当者にお問い合わせください。

ペーjャーの数値データ

ペーjャー呼び出し中に送信される数値データを入力してください。

• カスタマーの会社情報

会社の完全な郵便の宛先を提供します。詳細は、搭乗券プロセスのとおりでなければなりません。

- 会社名
- 番地
- 市区町村
- 郵便番号
- 国または地域

- 「カスタマー・データ」

。コール・ホームで送信する必要がある具体的なデータを提供します。このデータは、長さが最大 64 文字までのストリングとすることができます。

- カスタマー・ケア・アドレス

この情報は、コール・ホーム・ポリシーが「**OEM CC**」に設定されている場合にのみ提供する必要があります。

- IP アドレス
- ポート番号

- レガシー **CC** のコール・ホーム・セットアップ

この情報は、コール・ホーム・ポリシーが「**レガシー CC**」に設定されている場合にのみ提供する必要があります。

- コール・ホームのシリアル・ポート
- コール・インのシリアル・ポート
- コール・ホームのダイヤリング・ポリシー
- 再試行回数

- システムのロケーション

この情報は、コール・ホーム・ポリシーが「**レガシー CC**」に設定されている場合にのみ提供する必要があります。

地域

システムが配置される地域を指定します。

5. 「設定の保管」をクリックして、変更を保管します。

6. ASMI インターフェースを使用して、コール・ホーム機能をテストします。コール・ホーム機能をテストするには、[68 ページの『コール・ホーム・ポリシーのテスト』](#)を参照してください。

コール・ホーム・ポリシーのテスト

モデムがインストールされて正しく構成された後で、コール・ホーム・ポリシー構成をテストすることができます。

このタスクについて

注：コール・ホーム・ポリシーをテストできるのは、それが使用可能になっているときのみです。コール・ホーム・ポリシーの構成に関する手順については、[66 ページの『コール・ホーム・ポリシーの構成』](#)を参照してください。

コール・ホーム・ポリシーをテストするには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

コール・ホーム・ポリシー構成をテストするには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。

2. ナビゲーション領域で、「システム・サービス・エイド」を展開します。
3. 「コール・ホーム・テスト」を選択します。
4. 「コール・ホーム・テストの開始」をクリックします。現行のポートおよびモデムの選択により指定されたように、コール・ホーム・システムのテストが実行されます。

サービス・プロセッサのリブート

システム停止中などの重大なシステム状態では、サービス・プロセッサをリブートすることができます。サービス・プロバイダーから指示された場合にのみ、このタスクを実行します。

このタスクについて

サービス・プロセッサのリブートは、サービス・ファームウェアが実行状態にある間は実行できません。この操作を完了するためには、以下の権限レベルのいずれかを持っている必要があります。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ご使用のサービス・プロセッサをリブートするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム・サービス・エイド」を展開します。
3. 「サービス・プロセッサのリセット」を選択します。
4. 「続行」をクリックして、リブートを実行します。

サービス・プロセッサのソフト・リセット

状況によっては、サービス・ファームウェアが稼働状態にあるときにサービス・プロセッサをリセットしなければならない場合があります。サービス・プロバイダーから指示された場合にのみ、このタスクを実行します。

このタスクについて

サービス・プロセスのソフト・リセット中、ホスト区画の電源は遮断されません。

この操作を完了するためには、以下の権限レベルのいずれかを持っている必要があります。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

ご使用のサービス・プロセッサをリブートするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム・サービス・エイド」を展開します。
3. 「サービス・プロセッサのソフト・リセット」をクリックします。
4. 「続行」をクリックして、ソフト・リセットを実行します。

サーバーの工場出荷時設定への復元

ファームウェア設定、ネットワーク構成、およびパスワードを出荷時のデフォルト値に復元します。

このタスクについて

サーバーのすべての工場出荷時設定を出荷時のデフォルト値にリセットしたり、あるいは次のオプションを使用して特定の設定値のリセットを選択することができます。

- すべての設定のリセット
- サービス・プロセッサ設定値をリセットする
- サーバー・ファームウェア設定値をリセットする
- PCI バス構成をリセットする

すべての設定値のリセットを選択する場合は、これらのアクションが3つとも実行され、サービス・プロセッサ設定値、サーバー・ファームウェア設定値、および PCI バス構成を1つの操作でリセットすることになります。

注: 冗長サービス・プロセッサがインストールされていて使用可能になっている場合は、1 次サービス・プロセッサに対してどのタイプのリセット操作を実行しても、同じ操作が2 次サービス・プロセッサに対しても実行されます。



重要: サービス・プロバイダーから指示された場合にのみ、サーバーの設定値を出荷時のデフォルト値にリセットします。すべての設定値をリセットする前に、保存する必要があるすべての設定値を必ず手動で記録してください。この操作を実行できるのは、永続的なファームウェア・ブート・サイド (P サイドとも呼ばれる)、および一時的なファームウェア・ブート・サイド (T サイドとも呼ばれる) に同一レベルのファームウェアが存在する場合のみです。

サービス・プロセッサ設定値をリセットすると、ユーザー・インターフェースを介して設定していたすべてのシステム設定値 (HMC アクセスおよび ASMI のパスワード、時刻、ネットワーク構成、ハードウェア構成解除ポリシーなど) が失われます。



重要: サーバー・ファームウェア設定値をリセットすると、そのサービス・プロセッサに保管されていたすべての区画データが失われます。

PCI バス構成をリセットすると、次の一連のイベントが発生します。

- サービス・プロセッサはサーバー・ファームウェアに対して、電源オンを行ってスタンバイ状態に入るよう指示します。
- サーバー・ファームウェアがスタンバイ状態に入ると、PCI バス構成設定値がクリアされます。
- 次にサーバー・ファームウェアは電源オフを行って、サービス・プロセッサがスタンバイ状態になります。



重要: すべての設定値をリセットすると、前述の段落で各オプションについて説明した通り、システム設定値が失われます。さらに、システム・エラー・ログおよび区画関連情報も失われます。

出荷時のデフォルト値を復元するには、以下の権限レベルのうちのいずれか1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

注: システムの電源がオフのときは、時刻のみ変更できます。

出荷時のデフォルト値を復元するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開します。
3. 「**工場出荷時構成 (Factory Configuration)**」を選択します。
4. 工場出荷時設定に復元したいオプションを選択します。
5. 「**続行**」をクリックします。すべての設定値がリセットされた後に、サービス・プロセッサがリブートします。

サービス・プロセッサ・コマンドの入力

コマンドを入力して、サービス・プロセッサで実行することができます。現在、入力されるコマンド・ストリングに対して構文の検証は実行されていません。したがって、アクションを開始する前に、コマンドを正確に入力したことを確認してください。

このタスクについて

この操作を実行するには、権限レベルは IBM 認定サービス・プロバイダーである必要があります。

サービス・プロセッサ・コマンドを入力するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開します。
3. 「**サービス・プロセッサ・コマンド行 (Service Processor Command Line)**」を選択します。
4. 80 文字以内の有効なコマンドを入力します。
注: 有効でないコマンドを入力すると、システムがハングする場合があります。この状態が発生したら、サービス・プロセッサをリセットします。
5. 「**実行 (Execute)**」をクリックして、サービス・プロセッサでコマンドを実行します。

ガード機能を使用して構成解除されたリソースの表示

システム・プロセッサのガード機能によって構成解除されたハードウェア・リソースのリストを表示します。

このタスクについて

構成解除されたハードウェア・リソースごとに、構成解除の原因となったエラーのタイプ (予測、診断、訂正不能など) も表示されます。また、詳細なエラー・ログ・エントリーも表示可能です。

この情報を表示するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

構成解除されたリソースのリストを表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド**」を展開します。
3. 「**構成解除済みリソース (Deconfigured Resources)**」を選択して、構成解除されたリソースのリストを表示します。
注: このビューで使用可能な「**カスタマー・アラート**」機能は、デフォルトで使用可能に設定されています。この機能は、構成解除されたハードウェアを交換するよう、定期的アラートを出します。メモリまたはプロセッサがシステムから構成解除されている場合に、「**カスタマー・アラート (Customer Alert)**」機能を使用可能または使用不可に設定できます。

USB サービス機能の使用可能化

USB サービス機能を使用可能にして、デバッグ・データおよびシステム構成データを取り外し可能 USB フラッシュ・デバイスに保存する方法を説明します。

このタスクについて

USB フラッシュ・デバイスを使用して、デバッグ・データおよびシステム構成データを保存しておき、後でデバッグ・データおよびシステム構成データを使用して問題をデバッグすることができます。サービス・

プロセッサ・ダンプ・ファイル、システム・ダンプ・ファイル、ハードウェア装置ダンプ・ファイル、システム設定、ネットワーク設定、およびプラットフォーム・エラー・ログまたはイベント・ログを取り外し可能 USB フラッシュ・ドライブに保存することができます。システム設定またはネットワーク設定を取り外し可能 USB フラッシュ・ドライブからサービス・プロセッサに復元することもできます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

USB サービス機能を使用可能にするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. サービス・プロセッサの状態を「**スタンバイ**」状態または終了状態に変更します。
3. USB フラッシュ・ドライブをシステムに接続します。
4. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド (System Service Aids)**」 > 「**USB 使用可能サービス機能 (USB-Enabled Service Functions)**」を展開します。
5. 「USB 使用可能サービス機能 (USB-Enabled Service Functions)」リストから、必須指定のオプションを選択し、「**続行**」をクリックしてダンプ・ファイルまたはログ・ファイルを USB フラッシュ・ドライブに保存します。

注: 別のシステムからネットワーク設定を復元すると、そのシステムはネットワークから切り離されます。

サービス・プロセッサ・フェイルオーバーの開始

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、バックアップ・サービス・プロセッサからフェイルオーバーを開始することができます。

このタスクについて

サービス・プロセッサ・フェイルオーバーは、サービス・プロセッサのハードウェア障害に起因するお客様のシステム停止を減少させます。現行のシステム構成について冗長サービス・プロセッサがサポートされている場合、バックアップ・サービス・プロセッサからフェイルオーバーを開始することができます。

この操作を実行するには、以下の権限レベルのうちのいずれか 1 つが必要です。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

注: このタスクは、バックアップ・サービス・プロセッサからのみ開始できます。

サービス・プロセッサ・フェイルオーバーを開始するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム・サービス・エイド (System Service Aids)**」 > 「**サービス・プロセッサ・フェイルオーバー (Service Processor Failover)**」を展開します。
3. 「**続行**」をクリックして、バックアップ・サービス・プロセッサからフェイルオーバーを開始します。

保留中のサービス可能タスク

Advanced System Management Interface (ASMI) サービス援助機能を使用して、システム内のハードウェア・エラー・ログ、構成解除ログ、およびその他のサービス可能レコードを統合して表示することができます。

このタスクについて

保留中のサービス可能タスクを表示するには、以下の権限レベルのいずれかを持っている必要があります。

- 管理者
- 認定サービス・プロバイダー

保留中のサービス可能タスクを表示するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム・サービス・エイド」 > 「**保留中のサービス可能タスク (Pending Serviceable Tasks)**」を展開します。
3. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - **ハードウェア・サービス可能イベント (Hardware Serviceable Events)**
 - **構成解除済みハードウェア (Deconfigured Hardware)**
4. 「**続行**」をクリックして、詳細を表示します。

9080-M9S システム内のケーブルの検証

拡張システム管理インターフェース (ASMI) を使用して、システム内のケーブルの検証や、ケーブルのプラグが外れている、接続が正しくない、ケーブルの長さが正しくないなどの問題の識別を行えます。

このタスクについて

フレキシブル・サービス・プロセッサ (FSP) ケーブル、ユニバーサル・パワー相互接続 (UPIC) ケーブル、および対称型マルチプロセッシング (SMP) ケーブルが正しく機能しているかどうかを確認できます。

ケーブルを検査するためには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム・サービス・エイド」 > 「**ケーブルの検査**」と展開します。
3. 「**ノード位置の検証**」をクリックします。エンクロージャー識別 LED は、上から下へ明滅し始めます。
4. 「**ケーブルの検査**」をクリックします。
5. 「**ケーブル状況の表示**」セクションで、検証後に詳細を表示したいケーブルのタイプを次のなかから 1 つ選択します。
 - FSP ケーブル
 - UPIC ケーブル
 - SMP ケーブル
 - 上記のすべて
6. 「**続行**」をクリックします。
7. 表示された表の各列で検証状況が OK になっていることを確認します。なっていない場合は、該当の項目で示されているケーブルを交換して、ステップ [73 ページの『4』](#) から繰り返します。
8. 「**インジケーターの状態**」フィールドで、必要に応じてケーブルのインジケーターの状態を変更します。
9. 「**設定の保管**」をクリックして、変更内容を保管します。

ASMI のアクセスでの問題のトラブルシューティング

Advanced System Management Interface (ASMI) へのアクセスのセットアップに関連した一般的な問題のトラブルシューティングを行います。

次の表には、Web ブラウザーから ASMI にアクセスしようとしたときに発生する可能性のある一般的な問題についての情報が記載されています。この表には、これらの問題の共通の解決も示されています。

表 11 : ASMI に Web ブラウザーを使用してアクセスする場合の問題のトラブルシューティング	
問題	解決方法
Web ブラウザーにサーバーの IP アドレスに入ると、セキュリティ・アラートを受け取ります。	通常これは、お使いの PC またはノートブックが、サーバーをセキュア・サイトとして受け入れないことによるものです。この問題を解決するには、以下の手順を完了してください。 1. 「クライアント認証」ウィンドウで、接続時に使用する証明書を選択して「了解」をクリックします。 2. このページが見つからない、というエラーを受け取った場合は、お使いの PC またはノートブックがサーバーをセキュア・サイトとしてトラストしていません。PC またはノートブックにファイアウォールがある場合、ファイアウォールの設定を変更してサーバー IP アドレスをトラストするようにします。次にお使いの PC またはノートブックの Web ブラウザーのアドレス・フィールドにその IP アドレスを入力します。 3. 「セキュリティ・アラート」ウィンドウで「はい」をクリックします。
Web ブラウザーにサーバーの IP アドレスを入力すると、入力された IP アドレスを見つけることができない、というエラー・メッセージがブラウザーに表示されます。	1. Web ブラウザーのアドレス・フィールドに <code>https://<サーバーの IP アドレス></code> を入力したことを確認してください。 2. サーバーの IP アドレスを正しく入力したことを確認してください。サーバーの IP アドレスのリストについては、6 ページの表 1 を参照してください。 3. PC またはノートブックに経路指定エントリーを追加して、PC またはノートブックがネットワーク上でサーバーの場所を探索できるようにします。例えば、Windows がインストールされている PC をお使いの場合、コマンド行プロンプトを開いて、<code>route add <サーバー IP アドレス> mask 255.255.255.0 <PC または ノートブック IP アドレス> metric 1</code> と入力します。

表 11 : ASMI に Web ブラウザーを使用してアクセスする場合の問題のトラブルシューティング (続く)

問題	解決方法
Windows XP 上で実行される Microsoft Internet Explorer 7.0 を使用し、PC またはノートブックはサーバーと正しくケーブル配線されていますが、ASMI にアクセスできません。	通常これは、Microsoft Internet Explorer で「TLS 1.0 を使用する」オプションが有効になっていることを意味します。ASMI に接続するには、このオプションを使用不可にする必要があります。この問題を解決するには、以下の手順を完了してください。 1. Microsoft Internet Explorer の「ツール」メニューから、「インターネット オプション」を選択します。 2. 「インターネット オプション」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックします。 3. 「TLS 1.0 を使用する」チェック・ボックス (「セキュリティ」カテゴリー) をクリアして、「了解」をクリックします。
デフォルトのユーザー ID およびパスワードを誤って入力するか、6 回以上入力すると ASMI からロックアウトされます。	デフォルト・パスワードとネットワーク設定を、次のいずれかの方法でデフォルト設定にリセットします。 • 許可されたサービス・プロバイダーに新しいログイン・パスワードを要求します。 • サービス・プロセッサ・リセット・トグル・スイッチを使用して、デフォルト・パスワードとネットワーク設定をリセットします。このタスクでは、サーバーからサービス・プロセッサ・カードを取り外す必要があります。詳細については、次のレベルのサポートに連絡してください。

特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス 渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任は適用されないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述は、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

通信規制の注記

This product may not be certified in your country for connection by any means whatsoever to interfaces of public telecommunications networks. Further certification may be required by law prior to making any such connection. Contact an IBM representative or reseller for any questions.

本製品は、電気通信事業者の通信回線との責任分界点への、直接的な接続を想定した認定取得作業を行っていません。そのような接続を行うには、電気通信事業者による事前検査等が必要となる場合があります。ご不明な点については、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

IBM Power Systems サーバーのアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術コンテンツを快適に使用できるようにサポートします。

概説

IBM Power Systems サーバーには、次の主なアクセシビリティ機能が組み込まれています。

- キーボードのみによる操作
- スクリーン・リーダーを使用する操作

IBM Power Systems サーバーでは、最新の W3C 標準 [WAI-ARIA 1.0](http://www.w3.org/TR/wai-aria/) (www.w3.org/TR/wai-aria/) が [US Section 508](http://www.access-board.gov/guidelines-and-standards/communications-and-it/about-the-section-508-standards/section-508-standards) (www.access-board.gov/guidelines-and-standards/communications-and-it/about-the-section-508-standards/section-508-standards) および [Web Content Accessibility Guidelines \(WCAG\) 2.0](http://www.w3.org/TR/WCAG20/) (www.w3.org/TR/WCAG20/) に準拠するように使用されています。アクセシビリティ機能を利用するためには、最新リリースのスクリーン・リーダーに加えて、IBM Power Systems サーバーでサポートされている最新の Web ブラウザーを使用してください。

IBM Knowledge Center に用意されている IBM Power Systems サーバーのオンライン製品資料は、アクセシビリティに対応しています。IBM Knowledge Center のアクセシビリティ機能は、[IBM Knowledge Center のヘルプの『アクセシビリティ』セクション](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/help#accessibility) (www.ibm.com/support/knowledgecenter/help#accessibility) で説明されています。

キーボード・ナビゲーション

この製品では、標準ナビゲーション・キーが使用されています。

インターフェース情報

IBM Power Systems サーバーのユーザー・インターフェースには、1 秒当たり 2 回から 55 回明滅するコンテンツはありません。

IBM Power Systems サーバーの Web ユーザー・インターフェースは、コンテンツの適切なレンダリング、および使用可能なエクスペリエンスの提供を、カスケード・スタイル・シートに依存しています。アプリケーションは、視覚障害者が、ハイコントラスト・モードを含め、システム表示形式の設定を使用するた

めに同等の仕組みを提供します。フォント・サイズの制御は、デバイスまたは Web ブラウザーの設定を使用して行うことができます。

IBM Power Systems サーバーの Web ユーザー・インターフェースには、アプリケーションの機能領域に迅速にナビゲートできる WAI-ARIA ナビゲーション・ランドマークが組み込まれています。

ベンダー・ソフトウェア

IBM Power Systems サーバーには、IBM の使用許諾契約書の適用外である特定のベンダー・ソフトウェアが組み込まれています。IBM では、それら製品のアクセシビリティ機能については、何ら保証責任を負いません。ベンダーの製品に関するアクセシビリティ情報については、該当のベンダーにお問い合わせください。

関連したアクセシビリティ情報

標準の IBM ヘルプ・デスクおよびサポートの各 Web サイトに加え、IBM では、聴覚障害を持つユーザーまたは聴覚機能が低下しているユーザーが販売サービスやサポート・サービスにアクセスするのに使用できる TTY 電話サービスを用意しています。

TTY サービス
800-IBM-3383 (800-426-3383)
(北アメリカ内)

アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、[IBM アクセシビリティ \(www.ibm.com/able\)](http://www.ibm.com/able) を参照してください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「[Copyright and trademark information](#)」をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

電波障害規制特記事項

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

クラス A 表示

以下のクラス A 表示は、POWER9 プロセッサーを搭載した IBM サーバーおよびそのフィーチャーに適用されます。ただし、フィーチャー情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されている場合は除きます。

Federal Communications Commission (FCC) Statement

Note : This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Industry Canada Compliance Statement

CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)

European Community Compliance Statement

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2014/30/EU on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

European Community contact:
IBM Deutschland GmbH
Technical Regulations, Abteilung M456
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 800 225 5426
email: halloibm@de.ibm.com

Warning : This is a Class A product. In a domestic environment, this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

VCCI クラス A 情報技術装置

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

以下は、上記枠内に示されている一般財団法人 VCCI 協会表示を要約したものです。

この装置は、VCCI 協会の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示

この表示は、日本工業規格 JIS C 61000-3-2 機器のワット数準拠について説明します。

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値 : Knowledge Centerの各製品の
仕様ページ参照

この表示は、1 相当たり 20 A 以下の機器に関する一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A より大きい (単相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 6 (単相、PFC回路付)
- 換算係数 : 0

この表示は、20 A より大きい (3 相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 5 (3 相、PFC回路付)
- 換算係数 : 0

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - People's Republic of China

声 明

此为 A 级产品,在生活环境
中,该产品可能会造成无线电干
扰。在这种情况下,可能需要用
户对其干扰采取切实可行的措
施。

Declaration: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user may need to perform practical action.

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Taiwan

警告使用者：
這是甲類的資訊產品，在
居住的環境中使用時，可
能會造成射頻干擾，在這
種情況下，使用者會被要
求採取某些適當的對策。

The following is a summary of the EMI Taiwan statement above.

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user will be required to take adequate measures.

IBM Taiwan Contact Information:

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Korea

이 기기는 업무용 환경에서 사용할 목적으로 적합성평가를 받은 기기로서 가정용 환경에서 사용하는 경우 전파간섭의 우려가 있습니다.

Germany Compliance Statement

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 / EN 55032 Klasse A ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55022 / EN 55032 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:

"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.

New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:
IBM Deutschland GmbH
Technical Relations Europe, Abteilung M456
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5426
email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 / EN 55032 Klasse A.

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Russia

**ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу А.
В жилых помещениях оно может создавать
радиопомехи, для снижения которых необходимы
дополнительные меры**

クラス B 表示

以下のクラス B 表示は、フィーチャー取り付け情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されているフィーチャーに適用されます。

Federal Communications Commission (FCC) Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.

This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult an IBM-authorized dealer or service representative for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Industry Canada Compliance Statement

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

European Community Compliance Statement

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2014/30/EU on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

European Community contact:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Abteilung M456

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tel: +49 800 225 5426

email: halloibm@de.ibm.com

VCCI クラス B 情報技術装置

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用するを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示

この表示は、日本工業規格 JIS C 61000-3-2 機器のワット数準拠について説明します。

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値 : Knowledge Centerの各製品の
仕様ページ参照

この表示は、1 相当たり 20 A 以下の機器に関する一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A より大きい (単相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 6 (単相、PFC回路付)
- 換算係数 : 0

この表示は、20 A より大きい (3 相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器（高調波発生機器）です。

- 回路分類 : 5 (3相、PFC回路付)
- 換算係数 : 0

IBM Taiwan Contact Information

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

Germany Compliance Statement

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse B EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022/ EN 55032 Klasse B ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse B

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:
IBM Deutschland GmbH
Technical Relations Europe, Abteilung M456
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5426
email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022/ EN 55032 Klasse B.

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態 で 提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

